

平成18年度 水引中校区ふれあい市民会議 進捗状況一覧

議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H18年度末）	進捗状況（H19年度末）	地区別進捗 計画	H19年度 初予算	H20年度 初予算	事業完了 率
1	川底	市道川底乙須線は大雨が降ると水が流れ危ない。後下橋と接続の道がS字型で危険。側溝の設置とカーブカット等危険箇所の整備を。	建設維持課	この要望箇所については、危険性及び緊急性を考慮しながら予算の範囲内で実施していきたい	危険性及び緊急性を考慮しながら検討します	一部側溝の設置を実施した。今後も、危険性及び緊急性を考慮しながら検討します。				
1	川底	後下橋は形状が危険で冬になれば特に滑る。下の部分を継ぎ足して三角にする等対策を講じてほしい。	建設維持課	橋の幅幅には経費もかかる。橋の近くの農地を相談すれば、線形改善できるのではと思うが、私有地なのですぐには無理。出来ることから改善したい	市道川底乙須線の全区間で、危険性及び緊急性を考慮しながら検討します	危険性及び緊急性を考慮しながら検討します。				
2	草道	市道草道椎原線は見通しの悪いカーブが多い。通学路であるので、視距改良についての要望書を提出したが、進捗状況を伺いたい。	建設維持課	現地を調査し平成17年度に測量設計を行った。本年度中に視距改良工事を計画しており、自治会長と話をした。一部用地を購入する必要がある	用地交渉が難航しており、道路線形の再検討をしています	用地交渉が難航しており、道路線形の再検討をしています				
3	草道	水引中央団地の住環境の整備と湯島町農業振興地域の衛生的観点から合併浄化槽の設置を	建築住宅課	平成17年度に市営住宅ストック総合活用計画を策定し方針を定めた。草道下住宅は個別改善（トイレ水洗化）の判定を行った。実施年度は、今後検討	平成19年度ストック総合改善事業にて計画	平成19年度事業として、トイレ水洗化工事と併せて合併浄化槽を設置した。（事業完結）				
3	草道	原田川は今はいきれいではない。きれいな水でなければおいしいお米はできない。将来に農業経営を繋ぐため浄化槽の設置を	建築住宅課	平成19～20年度には浄化槽を設置したい。64ヘクタールのほ助整備が有効活用できるように前向きに取り組む	草道下住宅については、平成19年度ストック総合改善事業にて計画	平成19年度事業として、トイレ水洗化工事と併せて合併浄化槽を設置した。（事業完結）				
4	浜田	大迫線～湯原線が途中狭くなっており、すれ違い時危険である。一部は農道になっているので、市道に変更後、危険箇所については拡幅を要望したい	耕地課	農道のまま維持管理する。排水路に蓋を設置した農道の箇所が少し狭く、土地所有者等を調査し協力を得て、蓋を設置する方向で検討する	平成19年度で実施予定	平成19年度末現在、未実施。平成20年度に実施中。				
			建設維持課	地元の皆様と協議の上、部分的に拡幅し、離合箇所を確保したい。また視距改良箇所は、他の地域との調整を計りながら検討する	危険性及び緊急性を考慮しながらH19に検討します	危険性及び緊急性を考慮しながら検討します。近隣での工事に伴う残土がある場合は、対応をしたい。				
5	浜田	浜田集会所は一階和室会議室が狭く、消防車庫が使われていない。有効利用するため消防車庫部分を改装し、会議室を広くしてほしい	コミュニティ課	電源立地促進対策交付金制度による国の補助を受け建設・整備したものであり、法律上の規制や手続きが必要。改修が可能であるかの検討と調整を図る	平成19年1月に、九州経済産業局に対して電源立地促進対策交付金事業財産処分承認申請を行ない、平成19年2月に、消防車庫改修の承認を得た。平成19年度に会議室への改修工事を行う予定である	平成20年3月18日工事完成し、同月24日に引渡し完了。				
6	湯島	川内港の荷役岸壁はテロ対策で金網が設置され釣り人の出入は許可されない。金網開放の要望書を提出済みである。本件の後押しを	企業・港振興課 (企業・港振興推進室)	これまで利便性の良い釣り場であったが、法律に基づくものであり、人命の安全対策とコンテナ貨物も24時間の監視体制も必要である	川内港京泊ふ頭の金網については、港湾管理者である県が、人命及び貨物の安全対策から国際条約で定められたソーラス条約により設置しているため、開放についてはご理解いただくしかない、なお、平成16年12月に川内土木事務所へ提出された要望書の回答については、平成17年3月頃、要望された代表者に土木事務所長が条約に基づくものでありご理解いただきたい旨を口頭で回答されたと聞いている					
6	湯島	現場を見たが、1日200本もコンテナが入り難いかと思う。釣り人のために棧橋を作ってほしい	観光課	将来は可能では。棧橋は台風のとて壊れる。入り江のような地形があるといいが、唐浜はどうだろうか。観光や釣り人の増加を考えると検討課題	回答の通り。導流堤もあり、また西方の三十番入江も多く、釣りの穴場は多い。新たに釣り棧橋を造るとなると、川内港は外海に向いており、台風時等決壊の危険性が高く管理上大変である。	H18年度末に同じ				

平成18年度 水引中校区ふれあい市民会議 進捗状況一覧

議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H18年度末）	進捗状況（H19年度末）	地区別計画	H19年度予算	H20年度予算	事業完了	区分
7	湯島	湯島町～水引小学校通学路の街灯が少なく、夜道が暗い。部活帰りの児童、生徒の安全が確保できない恐れがあるので、防犯上の観点から街灯の増設を強く要望したい	コミュニティ課	自治会や地区コミュニティ協議会等を対象に防犯灯の設置費補助金制度を設けている。申請すれば、予算の範囲内で補助金を交付する	平成18年度に湯島町公民館より、要望箇所付近に1箇所水銀灯設置の交付申請があり、補助金交付を行う。今後も申請頂ければ予算の範囲内で補助金を交付していきたい。	防犯灯は自治会等の協力により設置して頂いている。今後も申請頂ければ、市の予算の範囲内で対応していきたい。					
			学校教育課	警察等の関係機関・地域の関係団体と学校・家庭が一体となった防犯活動をさらに進め、地域全体で児童生徒の安全を見守っていく体制づくりに努める	各学校は、スクールガードを組織し、児童生徒の安全確保に努めている。今後も、スクールガードは継続していく	各学校は、前年度に引き続きスクールガードを組織し、児童生徒の安全確保に努めている。学校も部活動終了後はなるべく1人で帰らないように指導している					
8	湯島	原田川は水草繁茂で河川と言うより溝川である。用水として使いにくく、魚礁としての自然環境もない。毎年の浚渫作業を要望する	建設政策課	防災的に危険性の高い箇所から優先的に寄洲除去や伐採作業を実施しているとのことで、年次的な浚渫や伐採を県に要望していく	早速、川内土木事務所と現地調査を行なった。川積を阻害している箇所は、寄洲除去等実施するとの回答であった	左に同じであるが、平成18年11月には、川内土木事務所に対し、防災的な観点から原田川・網津川・草道川の寄洲除去等の予算確保について要望を行なったところである。					
9	網津	網津踏切及び踏切から3号線に渡る道路の土地所有者との土地買収協議の進行具合と、拡幅工事実現の見込み、その時期も含め回答を	建設整備課	網津踏切は本城踏切の整備後だが、踏切の拡幅改良には鉄道事業者や接続する道路管理者との協議に時間を要し、多額の経費がかかり整備が進まない現状	H18～H20で本城踏切の整備を計画。網津踏切は、その後の整備を予定	平成19年度・20年度で御陵下町の本城踏切を整備中。中期整備予定箇所は、網津踏切となっているが、オレンジ鉄道の動向と検討する必要もある。また、費用が多額なため市の財政状況も厳しく、21年度着工は、厳しい状況にある。					
10	水引地区	水引小学校下の踏切近くに歩道橋ができ歩行者の安全は確保されたが、3号線交差点近くの踏切は依然狭く、大変危険なため拡幅を	建設整備課	歩道橋を整備し、ふるさと農道の利用が増え、列車の本数が減り速度も遅くなった。不自由だが拡幅改良が必要な踏切は多く、当面拡幅する考えはない	踏切改良の要望は多く財政的にも厳しい中、改良を実施している状況であり、当面、本踏切を改良する考えはない	H18年度末に同じ					
10	水引地区	信号の時差的なものにより車両の交差が危ない。また、電柱が信号の邪魔になっている	建設整備課	信号は公安委員会の管轄。該当の信号は感应式になっているが、川内警察署の交通課を通しあげたい。信号の見にくさについても交通課を通したい	引き続き協議を続ける	H18年度末に同じ					
その他		導流堤が大変痛んでいる。改良する予定はないか	建設政策課	調べる必要があるが、河川サイドで作ったもの。調査した上で所管に伝えたい	天端がブロック毎に凹凸がある。所管へ検討されるよう繋いである	導流堤の機能に支障はなく、改良の予定はない。					
その他		海水浴場の看板が国道の2メートル手前に設置してある。高さが軽トラ、自動車が先頭車両のとき見えにくい	観光課	看板については改善したい	実施済						
その他		国際交流センターでの自治会長研修会で冊子ももらったが、去年頂いたので変更がない場合は前年のを使うようにすれば良いのでは	コミュニティ課	自治会の冊子については去年ので使えるようであれば使うように職員に徹底したい	毎年、手引きの内容に変更がないか、掲載担当課に確認している。すべての課において、変更がなければ、そのまま使用していただくように通知します。平成19年度版手引きについては、組織の見直しに伴う問合せ先等の変更がありますので、配付したいと考えています。	平成20年度版手引きについては、制度内容の変更や組織の見直しに伴う問合せ先等の変更がありますので、配付します。					
その他		構造改善事業は1番最初に実施していただいたが、底が4センチしかない。最低でも30～40センチないといけないのではないかと	耕地課	構造改善事業については施工のやり方が問題だったのではないかと、耕地課に調査をさせたい	平成19年度早期に調査し、工法を検討したい。小規模であれば即対応したい	土地改良区地区理事に確認した結果、ほ場整備後の表土厚が少ない箇所があるとの。平成19年度は詳細調査未実施。平成20年度に調査・検討等行いたい。					
その他		保健センターの看板が小さくて見づらい	市民健康課	県道川内串木野線になるので県土木、警察と協議して案内板を協議したい。立て看板の設置等、見やすい表示を検討したい	保健センターの案内については、ホームページへの案内を掲載するとともに、すこやかふれあいプラザでの行事をされる場合には、案内図を添付してもらおう各課にもお願いしている。また、建物看板が分かりづらいとの声もあったため、北側玄関に看板を設置した						

平成18年度 樋脇地域ふれあい市民会議（4月21日開催） 進捗状況一覧

議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H18年度末）	進捗状況（H19年度末）	地区振興計画	H19当初予算	H20当初予算	事業完結分
1	樋脇地域5地区	県教委の要請で樋脇高校敷地へ設置の答申をした。しかし県教委は入来商高敷地へ決定。どのような態度をとるか、また振興策を	企画政策課	相反する結果となり遺憾だが、長引かせるのは教育上いかながものか。抗議行動は自重したい。地域の振興も含め、跡地利用を県と協議し検討したい	県へ要望中	年1回県へ要望書を提出				
2	野下	教職員住宅2戸、市営住宅2戸があるが、老朽化している。2階建ての4戸住宅の建設を。具体的な事業の内容、計画の教示を	建築住宅課	野下住宅は一般住宅として建替えと判定した。公営住宅と比べ基準が緩和され児童家庭に限るなど要望に応えやすい。実施は借り上げ型住宅を含め検討	借上げ型地域振興住宅制度要綱により検討	借上型地域振興住宅を、平成20年度、平成21年度のいずれかでの建設予定で、地区に用地選定を依頼中				
3	野下	県道申木野樋脇線は、野下地区へ入り込む主要道路であり、危険な場所である。早急に信号機の設置と危険箇所の現地調査を	建設維持課	勾配がきつい交差点である。信号機は県公安委員会が設置する。川内警察署や川内交通安全協会が行う道路診断等で、関係機関と協議・要望したい	県により「スピード落とせ」路面表示済み。現段階では、他の要望箇所に優先して信号機を設置する状況ではないとの回答（公安委員会）	緊急性、必要性等を検討して県下200箇所以上の要望箇所の中から予算の範囲内で設置されているが、本要望箇所は総合的検討された結果、現段階では他の要望箇所に優先して設置する状況ではないとのことである。引き続き要望したい。				
4	野下	野下小学校体育館下から下野下へ延びている堰堤を農道としているが、行き止まりで不便なので開通を。地権者の承諾は得ている	耕地課	行き止まりを解消するには、河川管理者（県）が農道としての利用を可能とし、地権者の了解が必要だが、農道としての利用はできないとのことである	別ルートを検討。地権者の了解が必要	具体的な事業計画まで至っていない。				
5	市比野	温泉街活性化のための検討委員会を設置し、地区住民の理解や気運を高めるとともに、住民との連携を図りたい。温泉街の景観を良くし、観光客の宣伝活動を展開し、本地区の振興を期するものである。市の長期計画等に反映し、行政の支援と指導を要望したい	都市計画課	土地利用の動向を注視し、土地利用の規制・誘導を図るため、用途地域の指定を検討していく。都市計画に関して、検討委員会に助言・指導の協力をする	H18年度に本市のまちづくりの長期計画である「薩摩川内市都市計画マスタープラン」を策定予定である。その中で市比野地域の適切な土地利用、用途地域の指定を検討していくと記載している。H19、20年度に具体的に検討予定である	平成19年度薩摩川内市都市計画区域等検討業務委託を発注し、その中で、温泉街地区及び県道川内加治木線沿線について用途指定を検討している。今後、地域住民を交え適正な土地利用が図られるよう進めていきたい。				
			観光課	ホームページやマスコミ、観光雑誌、観光物産展、薩摩川内大使や郷土会にも情報を提供している。温泉資源の活用と温泉街の活性化を核に事業を推進	市観光振興基本構想を策定中 鹿児島県観光アドバイザー派遣事業を実施中	鹿児島県観光アドバイザー派遣事業を実施した。市比野温泉活性化委員会が市比野温泉活性化計画書を作成した。				
6	市比野	武田川、市比野川、城後川の寄州が高くなり、河川愛護作業では危険箇所、堆積土砂の撤去に至らない。災害の防止・景観の保存を	建設維持課	武田川・市比野川・城後川の3河川は、県（川内土木事務所）の管理する河川であり、県と危険箇所及び堆積土砂の状況を調査し、県へ要望する	県により治水上緊急性の高い箇所として武田川の要望箇所は、実施済み	県により引き続き治水上緊急性の高い箇所より予算の範囲内で整備中である。				
7	市比野	条例公民館として設置したが生涯学習の拠点としては程遠い。図書館や研修室等がなく施設機能が不足。施設の拡充・整備の充実を	生涯学習課	図書館機能は、樋脇郷土館に併設の図書館や移動図書館車が利用でき、研修室は、保健センター等他の公共施設のものを利用できる	不足する設備等は、他の施設の利用も検討していたきたい（H19.4から条例公民館は外れる予定。）					
7	市比野	少しずつでも充実を。新設できなければ、保健センターとして学習のできる機能があり、具体的な活用ができるようお願いしたい	生涯学習課	要望として承る	保健センターの利用については、施設の条例等に従って申請していただければ、活用していただける					
8(1)	樋脇	(1)18年度地区振興計画に市道・農道整備促進事業は協働での実施を記載している。利用度が高く、整備が必要な箇所を調査し、年次的な整備を要請したい。道路愛護作業、台風通過後の倒木等も処理しているが、高齢化が進み作業困難な箇所もあるので、支援を要望する	耕地課	地区振興計画では、倉野地区の3路線が農道整備事業要望で搭載され、危険箇所等から年次的に整備する方針である。平成18年度は、農道舗装工事は浦田外2地区を整備する予定である。また、原材料費を前年並みに確保し、危険箇所等を優先的に地元施工でお願いする。その他の箇所は利用状況や危険性等を考慮し年次的に整備したい	優先順位を考慮し、年次的に実施予定	前年に引き続き優先順位を考慮し、舗装工事等を実施した。				
			建設政策課	平成18年度は、当初予算で城下一周線外2路線を整備する予定。市全体で緊急性、必要性等を検討し、整備計画を立て実施する	平成18年度事業実施中。平成19年度は、用地不調及び相続手続きに難航し休止の見込みである	緊急性、必要性を検討の上計画的に整備する。				
8(2)	樋脇	県道333号線の杉馬場から永利交差点間は交通事故等が心配される。拡幅工事の早期着工を。また、今後の整備計画の提示を	建設政策課	道路診断、図化測量を実施し概略設計を行い、地元説明会を開催し、詳細図面を作成する予定だが、事業実施の時期は未定とのこと。継続的に要望する	樋脇地域振興対策検討会でも直接県土木部長へ要望しているが、厳しい予算状況のため他地区の進捗を見極めたいとの回答であった	「事業中箇所の進捗状況を見極めながら検討したい。」との県回答				
8(2)	樋脇	県道333号線は菱刈の鉱山のトラックが1時間に9台通る。片一方は止まらなないと離合もできない。道路拡張を	建設政策課	大型ダンプが輻輳して、交通安全対策上もよくない。全力をあげ、この樋脇の住民の皆さん方の願い、要望を実現すべく、当たっていききたい	回答の通り	「事業中箇所の進捗状況を見極めながら検討したい。」との県回答				

平成18年度 樋脇地域ふれあい市民会議（4月21日開催） 進捗状況一覧

議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H18年度末）	進捗状況（H19年度末）	地区振興計画	H19当初予算	H20当初予算	事業完結分	
9	樋脇	樋脇中学校の通学路に防犯灯が少なく、不安な状態である。地元の会社の善意で防犯灯を設置・管理していただいたが、経営難で取り外された。日没の早い期間は暗い夜道を下校しており、危険である。人家・人通りの少ない道路の犯罪防止、中学生の安全な登下校に防犯灯を考慮していただきたい	建設維持課	街路灯は幹線道路の交差点、交通の頻繁な箇所や橋長が長い橋に設置している。警察署や公安委員会と協議しながら危険性を判断し設置を検討したい	引き続き検討したい	回答概要のとおり					
			学校教育課	警察などの関係機関・地域の関係団体と学校・家庭が一体となった防犯活動をさらに進め、地域全体で児童生徒の安全を見守る体制づくりに努めたい	各学校は、スクールガードを組織し、児童生徒の安全確保に努めている。今後も、スクールガードは継続していく						各学校は、前年度に引き続きスクールガードを組織し、児童生徒の安全確保に努めている。また、通学路等の安全マップを活用した安全指導をしたり、部活動終了後はなるべく1人で帰らないように指導したりしている。
			コミュニティ課	明るい社会環境づくりを促進するため、防犯灯を設置する自治会、地区コミュニティ協議会等の団体に対し補助金を交付する制度を実施	防犯灯設置補助金を活用し、地元で設置していただくよう地区コミュニティ協議会に対して回答した。今後も申請頂ければ予算の範囲内で補助金を交付していきたい						
10	樋脇	樋脇地区振興計画の基本方針の「住民の力により地区を活性化させるまちづくり」を農業振興施策で進めていく。そこで、農業振興地域の見直し作業・農業振興計画の策定、農業公社や農業の将来像を教えてください	農政課(農政畜産課)	農業地域の見直し作業・農業振興計画の策定等の状況は、旧市町村の農業振興計画を県と調整し、合冊という手法で統合。今後は新しい農業振興計画で策定するが、重点7品目に肉用牛を加え柱として振興。農業公社は、新規就農予定者の研修・農作業受委託・農地保有合理化を実施。地域農家の協力を仰ぎ、地域農業の振興に関係機関と協力したい	平成19年度において、市の農・畜産振興ビジョンを策定する予定である。また、薩摩川内農業振興地域整備計画についても平成20年度中に策定を行う予定である。農業公社は、引き続き同様の事業を行っており連携を図っていきたい	農業振興地域整備計画については、平成19年度の基礎調査結果を踏まえて、平成20年度に見直す予定である。農業振興基本計画（農業振興ビジョン）については、平成19年度で策定したところであり、農業公社研修事業については、樋脇地区では4名の研修生が就農に向けて研修中である。また農業公社の研修施設として、研修用ハウス3棟、作物調整出荷作業室兼研修施設の整備を行った。					
11	倉野	倉野地区は高齢化率が高く老人が多い。公共交通機関のバス・鉄道も通っておらず、ゆうゆうバスのみ。バス借上げ等の予算もなく、地区外での事業計画ができず毎年地区内事業である。事業を活性化させるためにも、コミ協主催の事業は市のバスの利用を	財産活用推進課	道路運送法に抵触しないよう、薩摩川内市バス使用規則に基づき使用許可をしている。バスが使用できるのは、市が主催又は共催する行事。したがって、地区コミュニティ協議会の単独行事でバスは使用できないが、市との共催行事では可能なので、バス使用を計画する場合は、支所と協議を	(回答中)	道路運送法に抵触しないよう、薩摩川内市バス使用規則に基づき、市が主催又は共催する行事で使用許可している。					
12	倉野	補助金申請には、さまざまな書類の提出が必要で作成に苦労している。簡易な申請へ。また、これ以上カットしないでほしい	コミュニティ課	自治会補助金の交付申請関連手続は、柔軟な対応に努めている。補助金額は各支所地域振興課と協議し、7地域均一に減額した	自治会補助金交付申請及び実績報告に必要な添付書類は、自治会総会資料で良いこととし、記入箇所が少なくなるように見直しを行った。自治会補助金額については、特例加算部分の見直し以外の減額はしていない	自治会補助金交付申請及び実績報告に必要な添付書類は、今後も自治会総会資料で良いこととし、記入箇所が少なくなるようしています。自治会補助金額については、特例加算部分の見直し以外の減額はしていません。					
13	倉野	農地・水・農村環境の保全向上を図る施策について、この補助事業の導入で事業展開できるよう取り組んでいる。市の見解、対応を	耕地課	当地区は種々積極的に取り組んでおり新規事業地区にふさわしい。優先的に事業導入を図りたいが、15箇所程度の類似箇所があり予算確保に努めたい	平成19年度からの実施地区として申請予定	H19に地区採択を受け、地区の活動組織において積極的に活動されている。					
13	倉野	今度炭焼き釜を作って、水路の中にこの木炭を入れ、水の浄化に努めようという振興計画も作っているので、合わせてお願いする	耕地課	ご協力方、ご指導方をお願い申し上げたい		市としては、個別の協力は実施していない。					
14	藤本	岩下自治会の住民は、全ての選挙で八重投票所で投票しているが、地区住民からは藤本投票所への変更の要望がある	選挙管理委員会	公職選挙法で現在の任期中は変更できない。選挙区を超えた投票区の再編見直しは平成20年11月6日任期満了に伴う市長・市議会議員選挙から実施	回答の通り	岩下自治会の藤本地区コミュニティセンターへの投票所変更は、平成20年7月実施の県知事選挙から実施する。					
14	樋脇	関連して、住民は樋脇町の塔之原で、学校校区は清色、消防の後援会は副田であるので、消防を清色にしてほしい	消防局	先日申し出があり、消防団後援会も清色となった	実施済	実施済					
15	藤本	居住希望者は多いが公営住宅が少ない。特設校制度にも取り組んでいるが、通学範囲でなく制度も適用されない。公営住宅の建設を	建築住宅課	藤本住宅は一般住宅として建替えと判定した。公営住宅と比べ基準が緩和され児童家庭に限るなど要望に応えやすい。実施は借上げ型住宅を含め検討	平成19年度借上げ型地域振興住宅整備地区として計画	平成19年度建設予定で、地区に用地選定を依頼しているが、適当な用地が見つからず継続依頼中					

平成18年度 樋脇地域ふれあい市民会議（4月21日開催） 進捗状況一覧

議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H18年度末）	進捗状況（H19年度末）	地区振興計画	H19当初予算	H20当初予算	事業完結分
16	藤本	藤本小学校前周辺の県道36号線拡幅改良工事は、地区振興計画に載せ県も回答済みだが、危険な場所である。また、「阿弥陀殿の岩仏」前のカーブの改良も要望する。昨年も同場所で3～4回の事故が発生した。地区として早期改良をお願いしたい	建設政策課	旧樋脇町長名で要望し、本市も知事に要望したが、未着工。要整備路線として把握しているが、厳しい道路予算状況のため、優先順位から未定とのこと。市も事業者向けに要望したい。阿弥陀殿の岩仏前は、進入時の速度を押しさえるため安全対策として減速マーキング等を設置。効果がなければ、設計速度を見直しカーブカット等の対策を講じるとのこと	樋脇地域振興対策検討会でも直接県土木部長へ要望しているが、厳しい予算状況のため他地区の進捗を見極めたいとの回答であった	「事業中箇所を進捗状況など緊急性を見極めながら検討したい。」との県回答				
16	藤本	県道36号線について、よく事故が起こるが、携帯電話の電波が届かない	情報政策課	携帯電話については、平成19年度にアンテナの設置を実施予定	携帯事業者（au）が平成18年度に整備。平成19年5月頃サービス開始予定	平成18年度に事業者単独（au）で整備し、平成19年4月26日運用開始している。				
その他	市比野	樋脇にはB&Gが資金を出したプールがあるが、1年間のうち3ヶ月ほどしか使用できない。このプールに市比野温泉の温水を引き、年間通して使用できると、樋脇保健センター、丸山公園の健康3点セットで売り出せる。今後コミュニティ協議会でも意見をまとめていきたいと思っている	市民スポーツ課	3月の市議会でも取り上げられたが、大変いい発想だ。通年利用できるプールは民営のものしかない。会員制でありなかなか気軽というわけにはいかない。市比野地区は地理的にも薩摩川内市の中心にあたり、恵まれている。高齢者の方が寝たきりにならないためにも早い期間に検討結果を出したい	プールへの温泉水の利用については、湯量等利用可能か樋脇支所産業建設課において調査を行っている	調査研究した結果、湯温調整用の捨て湯を利用した場合、大型の貯湯槽、加温施設等の整備が必要である。室内温水プールとして改造した場合、多額の改修工事及び年間管理費を要する。				
その他	-	お年寄りがふれあいサロンに来て距離が遠いため疲れ、終わったら帰る人が多い。各地区に1ヶ所ずつ簡単なトレーニングの場を	市民健康課	場所を作るというのは難しく、コすである場所を要望に応じてトレーニングの場にするなどして、薩摩川内健康21に倣い健康作りを進めていきたい	老人クラブ、コミュニティ協議会主催の健康づくり教室等で簡単な運動を紹介し、継続的な身体活動量の増加につなげるようにしたい。地域の健康づくり推進員等活用していただきたい	H18年度末に同じ				
その他	-	防災行政無線を昨年度議題として取り上げてもらったが、平成18年度に実施する予定であるとの回答だった。この進捗状況について	防災安全課	18年度から着手する予定であったが、IT・情報通信機器が日々改善され、総務省の許可が下りていない。検討の上で出来るだけ早い時期に実施したい	現在デジタル化に向け基本調査を行っており、平成19年度から基幹部の整備を行い、その後、地域ごとに年次的に整備していく予定である。整備するものについては、地区コミや自治会なども利用できるものを検討している	平成19年度末に基幹部（親局から屋外拡声子局の設計・施工〔屋外拡声子局は市内業者発注〕）の整備に関する入札を行い、現在、実施に向けた設計を行っております。平成20年度で基幹部整備を完了し、平成21年度から各戸に戸別受信機を設置する予定であります。その際、地区内限定放送が可能なものを検討しております。				
その他	-	支所の職員の数が減ると役割がコミュニティに回ってくるのではないかと。支所の人数もあるが、支所そのものも残るのかどうか	行政改革推進課	どこの支所もそうだし、本庁でも減っている。職員数を千人ぐらまで持って行きたい。私が市長在任期間中は支所の統廃合はやらない	回答の通り					
その他	-	樋脇保健センターに旧農協の米蔵であった石蔵があるが、有効活用できないか	観光課	石蔵を利用してなにかできれば大変いいことだと思うし、観光にもなる	現在、石蔵を観光資源として活用する予定はない	現在、石蔵を観光資源として活用していない				
その他	-	田代ニュータウンの入口にバス停がない	商工振興課	バス停の報告がないので確定したものは言えないが、従前その話もあった。バス会社と協議をしているが最終的な結果はまだない	ニュータウン入口付近はカーブになっており変則交差点でもありバス停の設置は危険である。最寄りのバス停は「田代上」が設置されているが、田代ニュータウン地区の戸数の内、バス交通を必要としている戸数（車を持たない世帯）がどの程度あるか調査をし、他の地区との調整を図る必要がある					
その他	-	昨年の質問について。丸山の芝コートの増設、給排水施設の整備の要望。このことについて進捗状況を伺いたい	建設整備課	コートの芝は倍かかるとのことです。どのような形で出来るか考えなければ。給排水施設は予算措置をしておりH18年度中に整備したいと考えている	芝コートについては、今後引き続き検討する。給水施設については、平成18年度で完了	平成20年度にて人工芝整備予定。				
その他	-	県道36号線で歩道がない部分があり、通学路として大変危険。地権者の同意が得られず、ストップしているとのこと。整備を	建設政策課	南九州西回り自動車道が開通すれば県道が担う役割は大きい。一番危険な箇所を整理し県に要望したい。地権者には同意をいただけるようお願いしたい	樋脇地域振興対策検討会でも直接県土木部長へ要望しているが、厳しい予算状況のため他地区の進捗を見極めたいとの回答であった	「藤本小付近の歩道については地権者の同意が得られるならば実施できないか（H21年度以降）検討したい。」との県回答				

平成18年度 入来地域ふれあい市民会議（4月14日開催） 進捗状況一覧

議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H18年度末）	進捗状況（H19年度末）	地区振興計画	H19年度予算	H20年度予算	事業完結分
1	入来地域5地区	他地域も視野に入れた観光プランを策定し、計画的なインフラの整備（愛宕観光道路の整備等）を要望する	建設整備課	入来愛宕線は、待避所の設置、急カーブ箇所の切り取り及び側溝整備等について緊急性等を助案しながら検討したい。抜本的な改良は難しい	本年度は、市道諏訪線（アスクール入来）から約100m程の土側溝の改修約30mを実施した。今後も緊急性等を助案しながら適宜実施したい	緊急性や優先等を助案して、適宜実施したい。				
1	入来地域5地区	入来の観光資源にさらなる支援と隣接する他地域も視野に入れた観光プランを策定し、更なるソフト面の充実を要望する	観光課	H P、広報紙、観光雑誌、観光物産展、郷土会や薩摩川内大使等を通じ情報の発信をし、市内外からの誘客を図り、地域の振興に努めたい	観光振興基本構想を策定中	市内旅行パック造成事業により、入来地域へのコースを実施している。				
1	入来地域5地区	観光道路の桜のことだが、早く手を打たないと千本桜が駄目になる。早急にしていただきたい	観光課	桜が枯れているとのことなので、早速現地を調査して検討したい	枯れた桜の処分は行う。新たな桜の植栽は困難。	周辺の樹木が生長しているので、植栽は困難である。				
1	入来地域5地区	観光について、君が代発祥の地というのもPRの一つに付け加えていただきたい	観光課	観光パンフレットにも出ている。歴史的文化遺産は入来地域が一番である。間牟田のさざらしも君が代と関連があり、リンクしてPRしたい	検討中	市内旅行パック造成事業により、入来地域へのコースを実施している。				
2	副田	温泉場地区区画整理事業は、ただ今進行中であるが、この事業に対する住民の期待は非常に大きいので、計画期間どおりの整備を要望する。また、公営浴場の老朽化のため、区画整理事業の中でも早い時期の整備計画は考えられないか。今後、整備の仕方について検討を行っているか、検討結果はいつ頃出るのか、地元説明会をいつごろされるのか伺いたい	入来区画整理推進室	温泉場土地区画整理事業は当初計画で62億円、H23年度迄で行った。平成17年度までに事業費ベースで約15.7%の進捗率。立山地区の工事を行っており、公衆浴場付近の整備は工事の進捗状況をみながら進めたい。平成17年度に現状の整理や湯ノ山掘削等の検討をコンサルに依頼し再調査したところ、当初の62億円が約90億円との事業費増額がわかった。事業費の増額の報告及び湯ノ山掘削の検討結果は「温泉場土地区画整理事業だより」で報告したい	回答概要の実施状況は下記のとおり実施済 ・事業検討結果地元説明会 5月17日～18日（4回） ・事業見直し案の地元説明会 11月29日（2回） ・温泉場土地区画整理事業だより 6月発行・12月発行	事業見直しにより、区域等の都決変更を行い、事業計画変更の手続きを行っているところである。 ・都市計画変更地元説明会（区域・道路・用途） 12月11日（2回） ・都市計画変更市決定 3月4日 ・実施計画変更下協議 県 1月22日・国 1月24日 ・事業計画変更下協議 国より回答3月18日 ・事業計画変更下協議 県申請 3月12日				
3	副田	昨年度の「ふれあい市民会議」にて報告があったように、副田地区コミュニティセンターは、3月22日に入来文化ホール別館へ事務所の移転を行った。協議会は夜間の会合等が多いので、指定管理者と施設使用について不都合のないように、協議を進めて欲しい。また、支所の組織見直しで入来教育支所が入来支所に事務所の移転をしたので、後々は旧入来教育支所を副田地区コミュニティセンターに出来ないだろうか	文化課	指定管理者が提出した申請書等より、地域の要望を優先し運営すると考えている。改めて地域との連携を十分配慮した運営を行う旨指導したい	指導した	地域との連携により運営されている。				
			生涯学習課	組織見直しで入来教育支所は教育生涯学習課として移転したが、生涯学習センターとしての業務は変更はなく、学習拠点としての役割を担っている	地域生涯学習センター（地域公民館）としての活用を位置付けており、他の目的での利用でなく、学習拠点としての役割を果たしていく					
			コミュニティ課	条例改正・電算ネットワークの構築等を行い、入来文化ホール別館に移した。コミュニティ主事の配置により、指定管理者との調整がとれる	施設使用については、コミュニティ主事・地区コミュニティ協議会及び指定管理者間で調整がとれている。同文化ホール（別館含む）は平成18年6月1日から指定管理者制度が導入された。これまで教育委員会、指定管理者とも調整が行なわれ、地区コミュニティセンター運営は順調に推移している。旧入来教育支所（現入来生涯学習センター）は、平成19年4月から「入来（地域）公民館」として、新たな社会教育施設として再スタート（地域公民館主事、社会教育指導員が執務）するため、地区コミュニティセンターとしての変更は当面考えられない	平成19年4月から「入来（地域）公民館」として再スタートしている。				
4	副田	合併して2年、本庁から直接の依頼などがあり、市民、地区コミ、自治会、支所の担当職員共々、困惑することがある。（例：基本健康診査申込書の地区コミへの回収依頼、リサイクル推進員の報酬振込通知が遅く自治会決算書の修正等）また、行政情報が市民に十分に周知されておらず、意思が市へ伝わらない状況を把握しているのか、改善策等を考えているのか意見を聞きたい	環境課	本年度当初にお願いしたが、36自治会が個人口座を記入し、払込通知書の発送がずれ込んだ。今後は3月上旬に口座振込と通知書を送付したい	ごみ減量資源化補助金（リサイクル推進員設置補助）は、3月9日（金）に自治会口座へ振込みを行う旨を2月21日付け文書で各自治会長宛通知した	ごみ減量資源化補助金（リサイクル推進員設置補助）は、3月10日（月）に自治会口座へ振込を行った。				
			市民健康課	回収依頼が地区コミュニティに十分に伝達されていなかった点もあり、支所及び地区コミュニティとの連携や周知方法を改善したい	地区コミュニティセンターは平成19年度も健診申込書の回収指定場所をお願いしたところであるが、配布前に十分周知を図ったところである	18年度の方法に加え、返信用封筒で直接市役所に返送を可能にした。				
			コミュニティ課	広報紙などを毎月2回送達している。事前に発送計画を自治会長に示し、計画にない文書は、コミュニティ課、地域振興課を通じ送達している	本庁各担当課所から直接、地区コミ協へ依頼文書等が発送されないよう、全庁的に周知を図り、必ずコミュニティ課を回付し、内容確認をおこなっているところである。今後においても、さらに徹底するよう周知と調整を徹底していきたい	本庁各担当課所から地区コミュニティ協議会へ依頼文書が発送されないよう、全庁的に周知を図り、必ずコミュニティ課を回付し、内容確認を行っているところである。今後においても、業務依頼の調整と周知を徹底していきたい。				

平成18年度 入来地域ふれあい市民会議（4月14日開催） 進捗状況一覧

議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H18年度末）	進捗状況（H19年度末）	地区計画 計画	H19年度 初年度	H20年度 初年度	事業完了 分
5	清色	国県道を結ぶ市道須ノ場線側からの入口から120メートル程が未改良。通学道路でもあり歩行者への危険も感じるので改良を	建設整備課	久木宇都・須ノ場線は112mが未整備が残っている。地権者の同意が得られなかったと聞いた。理解が得られれば緊急性等を助案し検討したい	地権者との接触を行うと共に、地域の優先、緊急性を研究したい	H19年度で用地買収が完了した。H20年度に実施予定。				
5	清色	未整備の120mのうち約60メートルは買収済みでありその分だけでもできないか。残りの買収はどこが行うか	建設整備課	緊急性等を助案して判断したい。用地買収が済んだ60m区間を離合場所として活用いただきたい。	現在、用地買収が済んだ部分については離合場所として利用している	H19年度で用地買収が完了した。H20年度に実施予定。				
6	清色	清色地区には家を借りたいという人は多いが、適当な空き家はない。久木宇都地区に適地があるので、市営住宅の建設を望む	建築住宅課	新設する場合は、老朽化した公営住宅を整理統合するような形で。定住が目的であれば、公営住宅より一般住宅や特定公共賃貸住宅が合致している	ストック活用計画では、地区内の老朽化した市営住宅の統廃合の形で計画している。実施時期については未定である。久木宇都地区の適地についてはH18.8.29清色コミュニティ会長と現地を視察、地元建設会社の所有地、用地取得が必要である	地元より適地と示された土地は、平成19年6月に売却され、現在は葬祭場が建設されていることから、地元を交えて検討していきたい。				
7	清色	公園用地の未利用地の南西側には、孟宗竹が繁茂している。この孟宗竹林を有効活用するためにも、協議会で管理し、竹林のオーナー制度等により観光資源として活かせないか検討しているが、協議会での利用は可能か。竹林改良等を実施しようとする場合、補助の対象になるか	林務水産課	協議会の利用は手続を経れば可能だが、非常に繁茂しており整備が先決。竹林改良事業は竹林を貸すための改良事業ではなく取り組みはできない	竹材の活用について検討を重ねていく	竹材の活用については、18年度同様有効な活用はないため、今後も検討していく。				
			観光課	国指定の史跡、埋蔵文化財に指定されており関係機関との協議を要する。整備が可能となった場合には観光資源として活かせないか検討したい	検討中					
8	朝陽	朝陽地区コミュニティセンターの外トイレはマナーの悪い利用者などが多い。乗入れ規制や、夜間の使用制限ができないか	建設整備課	駐車場は普通公園として管理している。大型車両だけの規制は難しく看板等によりお願いをする。夜間は、地区ゴミで柵の管理をするならば可能	平成18年度で大型車両規制の看板設置済み。公園入口の柵（車止め）は設置済み					
9	朝陽	新大橋は「第46-16号登録有形文化財（文化庁）。～上記建造物は、重要な国民的財産」とあるが、この貴重な資源を活かし、橋の周辺を観光地として整備したい。そこで、国登録により、どのような保存管理が行われるのか、また、上記の計画にあたり河川等の規制の問題はないか	文化課	文化財の登録制度は、文化財を活用しながら保存活用できる。現況のまま活用・保存し、景観を変えず、地域の文化財として残していける	回答の通り	回答のとおり変更無し。				
			建設維持課	工作物等の設置は河川を管理している川内土木事務所との協議や許可が必要。相談があれば、地元の方々と同行するなどして県と協議したい	地元の動きに対して対応したい					
10	朝陽	新大橋の重量制限により、平木場橋を通る大型車両が増加している。平木場橋の強度調査の実施と問題がある場合は補修工事を	建設維持課	平成13年度に約150mを整備した。橋梁の専門家が現地を調査し、改修工が必要な場合は緊急性を助案し、必要な予算を確保したい	検討中	検討中				
11	朝陽	市政改革により職員数が減少しているが、道路作業班は今後も存続があるのか	建設維持課	道路維持補修等業務嘱託員は要望にすぐに対応できるなど必要である。市の直営のまま続けるか民間委託業務にするか調査・研究中である	平成19年度は継続	継続				
1.2 (1)	八重	赤仁田川及び八重川に壁を設置し非常時に使用できるよう要望する。 (1) 2箇所の防火水壁設置・・・赤仁田川	消防局	視察したところ、水量は豊富で十分に取水でき、湯水期等にも水量は満たされるということを確認した。よって赤仁田川の防火水壁は必要ない	実施しない	実施しない				
1.2 (2)	八重	(2) 1箇所の防水壁設置・・・八重川	消防局	防火水壁近くに消火栓はあるが、消防水利が手薄であり、支所や地元と協議し検討する。防火水槽も含め検討するが、速やかには出来ない	19年度建設する予定である（入来支所対応）	現地を再度確認したところ、場所、水量等消防水利として有効なのか検討しましたが、消防水利の基準に適合していないと判断し、現状では防水壁については設置しないこととしたい。				
1.2 (3)	八重	(3) 設置場への標識と利用道	消防局	自然水利を利用するのは、消防局及び消防団であり標識を掲げていない。利用道は八重川の要望地点は道路脇であり、進入道路は必要ない	実施しない	実施しない				
1.3 (1)	八重	市道八重線の八重三文字から草渡までの間を、危険突角箇所の視距改良を年次ごとに計画していただけるよう要望する	建設維持課	部分的に突角除去工事を行ったが解消されていない。八重線道路改良工事の進捗状況や緊急性を判断し、視距改良工事について検討する	検討中	検討中				
1.3 (2)	八重	市道丸岡線は原材料支給を受けて生コン舗装をした道路。凹凸が多く離合も困難で通学路でもあるので早急な維持補修の対応を	建設維持課	入来支所と連携し予算の範囲内で維持補修したい。このような維持補修的な件については、支所産業建設課にご連絡くだされば対応する	危険性・緊急性を考慮し、調査を行い対応する	舗装の破損箇所は、道路維持補修班で対応している。				

平成18年度 入来地域ふれあい市民会議（4月14日開催） 進捗状況一覧

議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H18年度末）	進捗状況（H19年度末）	地区振興計画	H19年度予算	H20年度予算	事業完結分
14	八重	「ふれあい市民会議」に提起された意見・要望の途中経過を含め措置模様等の迅速かつ適切なフィードバックが出来ないか	広報室	今後は速やかに対応したい。答弁要旨は市ホームページに掲載している。進捗状況は年度末までの状況をコミ協会長及び各支所に対して回答する	回答の通り	回答のとおり				
15(1)	八重	自治会長の事務負担の軽減化について (1) 各種申請書類や報告物についてその報告が必要か等の検討	コミュニティ課	自治会補助金の交付申請関連事務は市の規則に定める様式に限定せず、各自治会の総会資料等の添付で受理するなど柔軟な対応に努めている	自治会補助金交付申請及び実績報告に必要な添付書類は、自治会総会資料で良いこととし、記入箇所が少なくなるように見直しを行った	自治会補助金交付申請及び実績報告に必要な添付書類は、自治会総会資料等で良いこととし、記入箇所が少なくなるように見直しを行った。				
15(2)	八重	(2) 市当局で処理すべきものを、人手不足を事由に「行政連絡員」の自治会長に委ねていないか等のチェック	コミュニティ課	配付文書毎に必要な性や重要性を考慮し、自治会文書として配付いただきたい文書を検討の上、行政連絡員の負担を軽減できるよう調整している	配付文書は、必要性や重要性を考慮しながら、取扱ってきた。今後、調整を図る依頼文書については、時期を統一する等研究していく	自治会長へ業務依頼をしている業務を調査し、調整ができるものについては改善を図る。				
15(3)	八重	(3) 自治会長を育て支援するための環境づくりはどつあるべきかの検討等、事務負担軽減策を、総合的に検討・考察を	コミュニティ課	自治会長研修会の開催、自治会運営の手引きの配布をしている。送達文書は、情報提供すべき文書であるか検討し発送計画を作成している	自治会長研修会の実施。自治会運営の手引き、市民活動災害補償保険の手引き等を配付。事務負担軽減については、今後引き続き研究を重ねていく	自治会長研修会の実施。自治会運営の手引き、市民活動災害補償保険の手引きを配布。事務取扱についても丁寧に説明している。				
16	大馬越	小規模の協議会は行事を行うほど、資金不足になり住民負担になる。助成金の算定方法について配慮を	コミュニティ課	「コミュニティ活性化事業補助金」を予算措置した。地区コミュニティの補助金の算定基準は、世帯規模割、世帯数割、事務運営費割の3つである	特色のあるソフト事業については、「地区コミュニティ活性化事業補助金」の活用を促す。地区コミュニティ協議会の補助金の算定基準は、世帯規模割、世帯数割、事務運営費割の3つであるが、事務運営費については、見直しを行った。一律10万円の増提案公募型補助金制度の新設	コミュニティ協議会運営費補助金や地区コミュニティ活性化補助金は、平成21年度に見直すことになっている。提案公募型補助金等、その他の補助金の活用も勧めていきたい。				
17	大馬越	市議会の開始時間の遅れが発生した時は文字放送でも流して周知を。また、議場内の様子や、より身近な市議会広報を	議会事務局	平成17年度中にテロップ放送が可能となるようシステムを追加した。画面は設置上このままである。異なるチャンネルで市内の映像を放映中	定刻の開始時間に努めている。また、市議会広報については、編集委員会で市民の皆様にはわかりやすいものに努めるよう努力している	現在、テロップ放送で対応している。				
17	大馬越	事後報告は良くあるが、ホームページに今日はどの議員が質問するだとか、土日に見れるようビデオを取るとか予定はないか	議会事務局	今年度から、議会に関わるホームページを立ち上げたところである。ビデオについては今後の検討課題とさせていただきます	質問者・質問項目及び答弁内容等ホームページに掲載している	インターネットによる議会中継と録画放映の導入を検討した上で、録画媒体の種類、貸出しについて検討したい。				
18	大馬越	ふれあい市民会議は平日の午後に開催では出席できる方は限定される。本会議の趣旨を考え市民が参加しやすい日と時間に	広報室	できるだけ参加してもらい、意見交換をしたい。平日か、休日かについても賛否両論。支所、地区コミュニティ協議会と連携をとり設定したい	回答の通り	回答のとおり				
18	大馬越	2年に1回とのことであるが、前回もここであった。入来は5地区り趣旨を考え場所を変えるなどの考えはないか	広報室	駐車場、会場のスペースの問題等いろいろあるが、できるだけ交互にできるような方法を考えていきたい	回答の通り	回答のとおり				
その他	-	以前役場前停留所があり、その前に入来町時代の駐車場があったが、それを地権者に返し、それに伴いバス停が移動した。施設がいくつかある中で、三叉路に停車するので非常に危険を感じる。バス停の移動を検討していただきたい。今の職員駐車場が適所と思う	商工振興課 入来支所	バス停の移動・新設についてはこれまでも例があるので、まず現場を見て、バス会社と協議し、なるべく早く危険性のない場所に検討したい 駐車場は、入来地域は大きな借地が3カ所あったが、2ヶ所を有効利用しようということで今の形になった	平成18年3月のバス停移設の際に、支所と協議した上で現在の位置に移設した。職員駐車場の場所も三叉路であり小学校の入口にある事、駐車場も民有地である事から現在の位置に移設した 回答の通り					
その他	-	高齢者の医療は早期発見・早期治療が医療費を抑えることに繋がる。有料でいいから負担額を示し受けられるような施策は	市民健康課	実費を払って受けられるよう持ち帰って市民健康課とも協議をしたい	腹部超音波検診は実費の3,350円・骨粗しょう症検診は1,500円で対象外の方も受診できるようになっている(H18年度～)					
その他	-	釣尾川が一級河川であって、工事が遅れているのではないかと。川下から工事をするといいのだが、実際は違った	建設政策課	釣尾川は用地を区画整理で産み出す手法を取っている。引き続き要望したい。流末の先が別々だと、各々独立しているため上下には関係ない	区画整理の見直し等実施している段階であり、改修の着手には至っていないが、区画整理の進捗に併せて改修できないか、今後要望を続ける	土地区画整理事業にて用地を確保次第、改修していただくよう、今後も引き続き要望していきたい				

平成18年度 東郷地域ふれあい市民会議 進捗状況一覧

議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H18年度末）	進捗状況（H19年度末）	地区復興計画	H19年度予算	H20年度予算	事務元区分
1	斧淵	4・8地区コミュニティ協議会全体組織を設立し支部組織を設け活性化と連携を強化すべき。連絡会は今後も継続して開催を	コミュニティ課	年2回地域単位の連絡会及び全体会を開催したい。全体組織を望んでいるが、自立自興の精神に基づき4・8地区の会長のご意見でまとめていただきたい	4・8地区の全会長の総意により、平成19年5月設立を目標に、連絡会の組織化に着手	平成19年度の連絡会や、会長会が組織された。				
2	斧淵	当コミュニティ協議会では、環境美化、青少年健全育成、防犯・防災をセットで安全安心のまちづくりを進めるために青パト4台で地区内をパトロールしている。これらに対する市補助金のあり方についてお伺いしたい	防災安全課	地域の安全・安心まちづくり活動が推進されるよう必要に応じて青色回転灯や防犯用品の提供を行いたい。市補助金のあり方は議題9の回答を	防犯パトロールに関する補助金は考えていない。ただし、各地区コミュニティ協議会の防犯パトロール活動を支援するため、帽子、腕章、タスキ、チョッキ、のぼり旗等の防犯用品を今後とも提供していきたい	各地区コミュニティ協議会の防犯パトロール活動を支援するため、帽子、腕章、タスキ、チョッキ、のぼり旗等の防犯用品を提供したところである。青パトを利用した防犯パトロールに対する助成については、検討中である。				
			コミュニティ課	協議会の運営、活動に対し、合併前の自治振興及び社会教育に係る補助金等を統一し、地区コミュニティ協議会運営補助金として交付している	地区コミュニティ協議会の補助金の算定基準は、世帯規模割、世帯数割、事務運営費割の3つであるが、平成19年度、事務運営費について見直しを行い、一律10万円の増額。特色ある事業については、提案公募型補助金制度の設置	コミュニティ協議会運営費補助金については、平成21年度に見直すことになっている。地区活動を考慮したい。また、特色ある活動については、提案公募型補助金や活性化補助金により支援していきたい。				
			環境課	地区コミュニティ協議会内のごみの減量・資源化を推進するため、資源ごみの売払収入を地区コミュニティ協議会へ還元しており、事業の継続に努める	平成18年度は東郷地域へ資源ごみ売払い収入還元金、約591千円を還元した	平成19年度の東郷地域へ資源ごみ売払い収入還元金、約1,039千円を還元した				
			生涯学習課	東郷地域青少年健全育成会へ育成会助成金を、市青少年育成市民会議東郷支部へ支部助成金を助成。有効に活用し安全安心のまちづくりを	平成18年度も助成した。平成19年度も助成することで予定している					
2	斧淵	補助金は、一定額までは支所で決定できるようにしてほしい	行政改革推進課	予算は専決規定を設け1万円や5万円にはんは押さない。どうしても支所で決裁できないのか、どこに市民の皆様にご不便をかけているか検討したい	関係課と調整中	補助金の種類によって、本庁対応分と支所対応分がある。予算の執行管理上、本庁で処理しなければならないものもある。本庁・支所間の事務処理を迅速にすることで対応する。				
3	斧淵	薩摩川内市の成人式の前に、「成人を祝う会」を開催している。今後も実施したい。薩摩川内市の成人式について市長の考えを	生涯学習課	成人式の正式な式典は市が主催する式典のみ。「新成人を祝う会」もできるだけ情報を得ながら、事前に広報したい。今後も広報活動の面で協力する	成人式は市が主催するものは1回のみ。各地で開催することはできないが、各地域でお祝いされる「成人を祝う会」等の開催広報は協力していく					
4	南瀬	各種調査等に協力し議題・要望を出しても、具体的な回答も無い。書面での回答や情報の提供をするなど、成果を活用してほしい	防災安全課	自治会長等を通じて調査したものは地区コミュニティ会長、自治会長にその結果を支所から報告させることとした	毎年開催する地域防災連絡調整会議で提出された防災に関する要望等は関係課に持ち帰り検討、改善し、その結果を各地区に回答している。また、地区コミュニティ協議会長、自治会長とも連携を図り、漏れがないようにしていきたい	毎年開催する地域防災連絡調整会議で提出された要望等は、関係課において改善、改修の方向で調査・研修し、その結果を各地区に回答している。また、地区コミュニティ協議会長、自治会長とも連携を図り、漏れがないように、また、早期の回答ができるようにしていきたい				
5	南瀬	支所に相談しても「本庁との調整が必要」と、直接回答が返ってこない場合がある。支所は役割があると思うが、そのことを明確に	行政改革推進課	各支所の職員も合併時より減少し、支所は受付業務を行い本庁との協議や確認で時間がかかる。本庁支所間の事務を整理し効率的・効果的な組織を目指す	業務マニュアルを作成中	平成19年度に業務マニュアルを作成した。待遇改善により対応することとした。（「本庁に聞かないと分からない」と言わない。）				
6	南瀬	川内川の堤防改修工事は進んでいるが水害の時期は安心して生活できる状況にない。1日も早い築堤の完成の積極的な働きかけを	建設政策課	川内川が激特事業として採択され築堤や輪中堤、宅地の嵩上げ等が実施されることとなった。1日も早く進めていただき、住民の安全・安心を確保したい	現在測量実施中。平成19年度早い時期に説明会予定川内土木事務所へ要望してあるが、厳しい予算状況から他地区の進捗状況を見極めたいとの回答であった	説明会（H19.10.18）（川内川+国道267号）一部事業着手				
7	山田	若者の定住促進のためにも是非、山田地区にも市営住宅の建設を要望する	建築住宅課	借上型地域振興住宅制度による住宅建設を進める。地域の選定は児童の減少率、充足率、地域振興計画など、総合的に審査して年次計画を策定し決定	平成19年度借上げ型地域振興住宅整備地区として計画	借上型地域振興住宅2棟2戸建設				
8	山田	浦田橋から石井手橋まで幅員が狭く見通しも悪く危険。浦田橋は50年以上を経過し幅員も狭く橋の欄干も傾いている。早急な改良を	建設政策課	川内土木事務所では整備計画箇所として登載してあるが予算面で下位。国道267号線の迂回路としても重要な役割を果たす路線なので強く要望を続ける	（回答中）	「事業中箇所の進捗状況を見極めながら検討したい。」との県回答、今後も引き続き要望していきたい。				

平成18年度 東郷地域ふれあい市民会議 進捗状況一覧

議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H18年度末）	進捗状況（H19年度末）	地区復興 計画	H19年度 予算	H20年度 予算	事務元 分
9	山田	コミュニティ協議会運営補助及び自治会の運営補助金の交付を受けているが、平成19年度以降のこれら各補助金の交付方針、考え方を伺いたい	コミュニティ課	補助金制度改革委員会で全ての補助金の評価・見直しの検討がされているが、使い勝手のいい制度はできないか、手続の簡素化はできないか、他の補助金との統合も研究したらどうか、公金という種目にすべきではないかの提言がなされ、これを考慮し、皆様、議員の意見も伺い、制度の詳細を決定したい	地区コミュニティ協議会等補助金については、補助金制度改革委員会において、評価、見直しの結果、今後3か年で交付金化への見直しが判定結果として示された。平成19年度においては、従来どおり、補助金として交付を予定している	平成20年度においても従来どおり交付予定。 平成21年度に見直すことになっている。				
9	山田	平成17年度、18年度と比較して平成19年度は金額的にどうか	コミュニティ課	コミュニティ協議会と自治会の予算は、増えることはあっても減ることはないと思う。新しい補助金制度で別枠で取れるようなチャンスを準備していく	地区コミュニティ協議会補助金について、事務運営費を一律10万円の増額。自治会補助金額については、算定基準の世帯規模割・世帯割は同額とし、特別加算割額を減額したところである	平成21年度に制度の見直しを予定している。				
10	鳥丸	とうごう五色親水公園を今後より一層活性化するため公園の下流にカヌーを浮かべるなどふれあいの場所の整備の県への要望陳情方を	観光課	実現には検討すべき課題が残されている。河川整備が終了し実施は困難とのこと。今後も親水公園として出来る限りのハード、ソフト両面の整備を進める	県に要望済 実施困難	実施困難				
10	鳥丸	地元コミュニティ協議会としても、具体的に検討して市にお願いしたい	観光課	下流にカヌーを浮かべる。いい発想だと思う。中に砂がたまっているの、県に拘ってもらえればお金をかけずにカヌーが浮かべられるのではない	県に要望済 実施困難	実施困難				
11	鳥丸	鳥丸地区は交通網の整備で県道阿久根東郷線や広域農道の開通により非常に便利な地区となっている。過疎防止として、宅地造成を	企画政策課	過疎防止も含めた定住対策として、定住促進事業を行っている。宅地造成は売れ残りの分譲地が多数あり、現時点では市や土地開発公社で行う予定はない	回答の必要なし					
12	藤川	少子高齢化、過疎化解消として、若者の定住と2007年度からの団塊世代の第二の故郷として、市営住宅の建設を要望する	建築住宅課	借上げ型地域振興住宅制度による住宅建設を進める。地域の選定は児童の減少率、充足率、地域振興計画など、総合的に審査して年次計画を策定し決定	借上げ型地域振興住宅制度要綱により検討	平成20年度、平成21年度のいずれかでの建設予定で、地区に用地選定の依頼中				
13	藤川	藤川地区コミュニティセンターのエレベーターを昨年お願いしたがどのようにしているか。簡易なエレベーターの設置を早急に	コミュニティ課	ホームエレベーターは建築基準法により集会所施設には設置出来ない。1階の増改築、3人乗りの小型エレベーターがあり、両者の完成調査を推進したい	平成19年度当該地区コミュニティセンターへ小規模建物用小型エレベーター（3人乗り）設置工事実施予定である	平成19年度において、設置した。				
14	藤川	携帯電話の受信状態が良くない箇所が多く、かねてから受信エリアの拡大については要望が出ている	情報政策課	藤川地区は合併前から通信事業者へ要望しており、今後も通信事業者単独で整備するよう引要望していく。本地区は平成20年度には整備予定である	回答の通り	大久保地区については、平成19年度に事業者単独（au）で整備し、平成20年度で運用開始予定である。 中津俣、榎段地域については、平成20年度に事業者単独で整備予定である。				
その他		支所の横の下鶴田川の草払いをしているが、職員の応援が支所職員の減少で少なくなり大変になったので、なんとかしていただきたい	建設政策課	県も予算が無く薩摩川内市でも財政的にできない、何年かに一回はしていただけるようお願いしたい	要望を続ける	実施済				
その他		市全体の体育協会の運営費は変わらないが、各8地域の体育協会の補助金は廃止となっている。健康は大事なので復活の方向で	市民スポーツ課	薩摩川内市体育協会という組織があるが体育協会も体制を一本化いただきたくれば、体育協会としての恒常的な事業運営が図られるのではないかとのこと	合併により体育協会も体制を一本化したことにより平成19年度から地域体育協会へは市体育協会から補助金を交付	H18年度末と同じ				
その他		川内地域から東郷あるいは樋脇、入来、祁答院に転入された方にもなんらかの恩恵がある制度にしていきたい	企画政策課	定住補助金を導入した当初にも言われた。市外からの場合に限り取り扱うこととしている	回答の必要なし					
その他		スクールガードをしており、市長に横の繋がりをお願いしたが届いていなかった。大事なことなので再度お願いする	学校教育課	スクールガードリーダー、スクールガード、市の学校教育課の連携がうまくいかなかったようで、現在、連携を進めている	スクールガードは、各学校に組織されたもので、児童生徒の安全を守るのが目的である。スクールガードの趣旨について、関係機関へ説明しているところである	各学校毎に、スクールガードの連絡会やスクールガードリーダーとの情報交換会を開催したりするよう、学校を指導しているところである。また、各種情報等については関係課へ提供し、横の連携を図っている。				

平成18年度 東郷地域ふれあい市民会議 進捗状況一覧

議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H18年度末）	進捗状況（H19年度末）	地区復興 計画	H19年度 予算	H20年度 予算	事務分担 分
その他		少子化について、一番の大きな問題は未婚者の増加だ。男女の出会いの場を企画して欲しい。結婚数を増やすのに、いい案はないか	企画政策課	出会いの場を作ることを行っても考えないといけない。出会いの場を提供しても今の若い女性は集まってこない	(回答中)	合併前は、甌地区で各村が直営で実施している。最近では民間や各団体で、男女の出会いの場を提供している。市としては、側面的に支援できないか検討したい。				
その他		結婚しても子どもができない方々いる。不妊症が原因の方もいるし、経済的な原因の方もいる。大きな問題として捉えていただきたい	子育て支援課 (こども対策室)	ファミリーサポートセンターなどを設け支援している。	子育てに係る経済的負担の軽減対策として、市費単独事業として、育児手当支給事業、すくすくベビー券支給事業、チャイルドシート購入助成事業、乳幼児医療費3歳未満児無料化、補助事業として児童手当支給事業等に取り組み支援を行っている	子育てに係る経済的負担の軽減対策として、市費単独事業として、育児手当支給事業、すくすくベビー券支給事業、チャイルドシート購入助成事業、乳幼児医療費3歳未満児無料化、補助事業として児童手当支給事業等に取り組み支援を行っている				
			市民健康課	不妊治療について、市は年20万で最大5年間の合計100万円年出している	不妊治療について、市は年20万で最大5年間の合計100万円年出している(平成18年度～)	H18年度末に同じ				
その他		ゴミが捨ててある。拾っても3日もたつと捨ててあり、看板を立ててもそこに捨てる。ゴミ対策を行政はどのように考えているのか	環境課	2年前環境美化推進条例を作り、環境美化推進委員をお願いし活動いただいている。以前、監視カメラも設置していたが、経費がかかり設置をやめた	環境美化推進員からの報告による不法投棄ごみの回収、衛自連による清掃ボランティア活動補助や不法投棄物回収等業務により不法投棄ごみの処理を行った	環境美化推進員からの報告による不法投棄ごみの回収、衛自連による清掃ボランティア活動補助や不法投棄物回収等業務により不法投棄ごみの処理を行った				

平成18年度 祁答院地域ふれあい市民会議 進捗状況一覧

議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H18年度末）	進捗状況（H19年度末）	地区振興計画	H19年度予算	H20年度予算	事業完結分
1	黒木	今後の米政策改革は、話し合いをしながら再編が進められると説明を受けた。JAさつま管内では「担い手育成ではJAと行政との連携が不可欠」として、担い手支援室が設置された。さつま農協の関連もあるのが当地域からもスタッフの派遣を要望する	農政畜産課	経営安定対策推進協議会を立ち上げ、米政策改革等に対応すべく体制作りを実施。新政策の推進を強化するため、10月から専任職員を配置し関係機関と連絡調整を図り認定農家及び農家集団との協議・支援等に努め集落営農組織作りに対応する。さつま町の担い手支援室への派遣は考えていない	これまで同様、認定農業者や集落営農組織等の担い手育成に取り組んでいる。	これまで同様、認定農業者や集落営農組織等の担い手育成に取り組んでいる。平成20年度からは、「担い手育成指導業務嘱託員」を新たに設置し、集落営農の組織化や法人化のための支援体制を強化している。				
2	黒木	県道堂山宮之城線、黒木中から黒木浦までの延長700m、黒木浦から矢立公園入り口までの延長2,600m区間は危険な状況のため、改良舗装の早期着工を要望する。昨年8月関係機関に要望したので重ねて県に要望を。また矢立地区の農道大山ノ口線は、早期完成をお願いする	建設政策課	地元より同意書が提出され市も要望を重ねている。川内土木事務所管内の整備計画には登載されたが、厳しい県の予算状況等から実施年度の記載はない	県土木と現地調査を実施。平成19年度測量調査予定	「事業中箇所の進捗状況を見極めながら検討したい。」との県回答、今後も引き続き要望していきたい。				
			耕地課	農道大山ノ口線は県の採択枠の減少等により平成17年度から未採択。引き続き平成19年度の県単独補助事業での採択要望を行っていく	平成19年度県単独事業での採択要望中	平成20年度県単独事業での採択を優先順位第1位として再度要望中				
3	上手	施設の設置が決まったことは有難いが、地元へのメリットを考えて頂けないか、現段階での進捗状況はどうなっているのか	財産活用推進課	旧大村高校跡地は介護施設、福祉施設、温泉施設が建設される予定で、事業者側で再度の立案、関係機関との協議を行っており、施設の運営に当たり職員が地元雇用を、温泉施設は地元住民へ開放も模索したいとのこと。議会で施設の建設と職員は地元採用をとの意見があり、事業者側と連携を取り地元地域の方々と共存・共栄できるよう対処したい	(回答中)	大村高校跡地については、地域密着型サービス事業用施設及び温泉施設の用に供することを目的に平成19年度に売却した。福祉施設については、平成20年11月から運営開始予定である。また、施設運営に当たり、地元祁答院地域から職員を採用している。温泉施設については、開設時期は未定であるが、地元住民に開放することとしている。				
4	上手	上手地区コミュニティ協議会では集落再編を推進中でこれと並行して新自治会に単独の無線放送施設を設置する計画であるので支援を	防災安全課	自放送施設を設置する場合、市が事業費の2分の1を補助する制度がある。平成19年度からのデジタル方式への移行を予定しており短期間に整備したい	現在デジタル化に向け基本調査を行っており、平成19年度から基幹部の整備を行い、その後、地域ごとに年次的に整備していく予定である。整備するものについては、地区コミや自治会なども利用できるものを検討している	平成19年度末に基幹部（親局から屋外拡声子局）に係る入札を実施、平成20年度に基幹部の整備を行い、その後、全戸に戸別受信機（地域内限定放送を可能なもの）を整備する考えである。				
4	上手	自治会長宅からそれぞれ繋がれるのか	防災安全課	本庁、支所、消防局、地区コミや自治会からも利用できるものを考えている						
5	上手	合併後の消防団組織の改革により、上手分団のこれまでの三詰め所を一箇所に新設する計画をお聞きしているが、その後の進捗状況を	消防局	旧大村高校跡地の一部を消防局に移管する方向で分筆・農地転用を進めている。上手分団特地点検の際に要望を受け、実施計画への登載へ向け対応したい	平成18年6月、地元からの正式な要望書の提出があり、新詰所を旧大村高校下の跡地に19年度に新設する方向で当初予算に計上し議会へ提案したところである	平成19年度3詰所を1箇所に統合し、新設したところである。実施済み				
6	上手	県道下山山田帖佐線の上手浦から漆間の約5kmについての整備が必要。今後も積極的に要望活動を	建設政策課	望の上手浦から漆間約5kmは同一路線で2箇所の工事は財政的にも厳しく、バイパス工事を優先し年次的に整備したいとのこと。今後も強く要望する	回答の通り	事業中（上手地区）・・・用地事務 今後も、引き続き整備促進を要望していきたい。				
7	大村	藍屋から広段に通ずる林道による災害時の迂回路の確保と森林資源の効率的搬出、竹炭・木炭生産活動の促進のため是非改修舗装を	林務水産課	当該路線は国県の補助事業の採択は難しく、早急な取組みはできない。作業道の路面が荒れている部分は現地を調査し路面補修、材料支給等で対処したい	材料支給で地元が対応できるか協議していく	作業道の荒れている箇所については原材料支給で対応している。				
8(1)	大村	大谷林道の完全舗装と景観展望所の設置	林務水産課	未舗装の区間は国の補助事業として取り組みができず、市単独も厳しく材料支給等で対処していく。草払い等は維持管理の中で実施し展望の確保に努める	未舗装区間の補助事業としての採択が厳しく実施は難しい。草払等については林道の維持管理の予算で実施している	未舗装区間の補助事業としての採択が厳しく実施は難しい。草払等については林道の維持管理の予算で実施している。				
8(2)	大村	森林資源の活用と林道建設（林道天理線からの延長）	林務水産課	利用区域の拡大等が見込めず延長増は難しい。森林資源を有効活用するため路網整備は必要。森林施業の状況等を勘案し、作業路、集材路整備で推進する	作業路等での開設が可能か地元と協議していくこととしている	作業路等での開設が可能か地元と協議していくこととしている。				
8(3)	大村	大村古城跡の整備促進（大轟小学校裏山城山）	文化課	シラス台地に築かれた関係上、崩落対策が行われている。この城跡を整備するとすれば、民有地の公有化や学術的な調査の必要があり、研究課題としたい	回答の通り	回答のとおり				
9(1)	大村	農業経営安定化対策としての水田の裏作利用のための土地改良について 湿田の排水工事による乾田化事業の推進	耕地課	従来より要望に基づき排水対策工事を実施し、引き続き、要望箇所の現地調査し優先順位を考慮し実施する。大規模な場合は、県単独の補助事業の導入も	市単独事業で継続実施中である	市単独事業で継続実施中である				

平成18年度 祁答院地域ふれあい市民会議 進捗状況一覧

議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H18年度末）	進捗状況（H19年度末）	地区振興計画	H19年度予算	H20年度予算	事業完成分
9 (2)	大村	集落営農集団の具体的推進	農政畜産課	主な市内6組織と話し合いを進め、これらの地域を中心に集落営農地区を広く推進する予定。地域・農家の方々との協力し住民検討会、研修会等を開催する	農事組合法人の設立を始め（樋脇町倉野・東郷町藤川）これまで同様、集落営農集団の育成に取り組んでいる	平成19年度、希望自治会等に出向き集落ぐるみの営農活動について説明を行った。平成20年度も、コミュニティ協議会会長会議で、集落営農活動周知説明会開催の協力依頼を行った。今後も、関係機関と連携し、説明会開催希望の自治会等に出向き、集落ぐるみの営農活動の重要性について、周知を図っていく。				
9 (3)	大村	裏作・小麦・大豆等の集団栽培の実現	農政畜産課	小麦・大豆等は支援策があるが麦は気象条件が厳しく大豆は付加価値がある。飼料作物の推進を。集団栽培する作物を見出し集団栽培の実現へ協力したい	これまで同様、地区の話し合い活動を中心に集団栽培の実現に向けて協力したい	これまで同様、地区の話し合い活動を中心に集団栽培の実現に向けて協力したい。				
10 (1)	大村	河川の再改修と水の確保について 井堰による送水路の設置	耕地課	川内土木事務所と協議し現地調査していただいた。井堰の撤去補償を受けた経緯もあり各種協議事項も多く困難な状況。今後、さらに協議を継続する	協議を継続。現地の状況から改修は困難ではないか	河川管理者（県土木事務所）と現地を調査した結果、地元からの要望箇所（青良原田堰）については、河床が低く転倒堰への要望については、構造上設置できない状況であると判断した。今後は、現在の揚水機等の維持管理を行う農地・水・環境保全対策事業や中山間直接支払い制度等を活用し診断や修繕等を行っていきよう地元とその旨説明しご理解をお願いしたい。				
10 (2)	大村	川面の葎対策としての除去推進	建設維持課	河川環境を考慮し、葎の繁茂や土砂の堆積状況を調査し県へ要望していく。この2河川は平成19年度県単河川等防災事業の箇所要望をしている	本年度は、市街地より上流約300mの葎を除去しました。残り約800mについても県に随時要望してまいります	19年度は、上流約300mの葎を除去しました。残り約500mについても県に随時要望してまいります				
11 (1)	轟	県道川内祁答院線（333号線）、大村報徳学園近く延長100m、幅員4.8mで道路整備が行われていない。改修の早期実現策を	建設政策課	同意取得が厳しい状況と承知している。通行の支障になる立木の枝は、地権者の理解が得られ伐採させていただいた	測量実施中	引き続き地権者と交渉中、「今しばらく時間をいただきたい。」との県回答				
11 (2)	轟	問題解決に努力されたが安全面に対する対策は殆どなされていない。簡単に解決しそくないのでその間の具体的な緊急安全対応策を	建設政策課	「スピード落とせ」の文字表示が設置してあるが、まだまだ不十分なので、幅員減少の予告看板や減速表示板等の設置を県にお願いしたい	測量実施中	県にて看板等設置済み				
11 (3)	轟	樋脇、山田山県道の整備拡幅工事の早期着工	建設政策課	地形図による概略設計が完了。今後予算を確保し、詳細現地測量による設計計画を行なうこととなっている。早期着工に向け、強力な要望をしていく	樋脇地域からも要望があり、直接県土木部長へ要望したが、他地区の進捗状況を見極めたいとの回答であった	「事業中箇所の進捗状況を見極めながら検討したい。」との県回答、今後も引き続き要望していきたい。				
11	轟	歩道に土木事務所の敷払いの手が届かず、有効活用されていない。シルバー人材の利用はどうか。ふるさと美化活動など努力している	建設政策課	県で伐採や穴の補修を行っているが、手が届かないのと作業班が廃止の方向と聞いている。県に緊急早急に対応いただくようお願いしたい	実施済み					
12	轟	林道松木場線の整備は、地権者の同意が得られず工事は中止の状況。何とか同意を得られたので、再度早急に工事の予算処置を	林務水産課	県単林道開設事業として要望しているが、予算が厳しく採択が厳しい。森林施業道としての取り組みが早期にできないか協議をし、決定次第実施したい	補助事業として採択される可能性があるが協議している	補助事業として採択される可能性があるが協議している。				
13	轟	市道馬頭尾、竹下線道路の瀬戸口から竹下入り口までの区間で、水道管の破損や、路肩が緩むなど舗装が老朽化。舗装整備を早急に	建設維持課	路面や路肩等に老朽化が見られるが、舗装の状態はいい。路面に穴があくなどあれば、対応する。要望の区間の舗装整備は、舗装面を見ながら対応を検討	今後、舗装の状態を見ながら検討します	19年度は、極端に悪いところは補修しましたが、今後、舗装の状態を見ながら補修をします。				
14	蘭牟田	県道宮之城加治木線の歩道建設の促進について川内土木事務所に陳情しているが、前向きな返答は得ていない、今後も引き続き要望を	建設政策課	歩道が途切れ途切れに設置され、通過車輛も多く大変危険。平成19年度県単要望としてすでに提出し、県で調整中。再度県に対し要望していく	回答の通り	「事業中箇所の進捗状況を見極めながら早期着工に向け検討したい。」との県回答、今後も引き続き要望していきたい。				
15	蘭牟田	蘭牟田小学校のプールは昭和32年10月に建設され、ひび割れや水漏れの箇所も多く老朽化が進行している。是非改修建設工事を	教育総務課	学校施設は基本調査と耐震化優先度調査を実施し整備計画を策定する。この調査結果や他校とのバランスを踏まえ、改修の時期と方法を検討していきたい	学校施設の基本調査の結果、蘭牟田小学校のプールについても老朽化が確認されていることから、実施計画に搭載要望していきたい	学校施設の基本調査の結果、蘭牟田小学校のプールについても老朽化が確認されていることから、実施計画に搭載要望していきたい				
16	蘭牟田	平成19年度から入来町の給食センターから配食とのことだが、蘭牟田小学校の調理室の利用計画があるのかお伺いする	教育総務課	最新の設備を備えた家庭科室が整備され、家庭科調理室として活用することは難しい。郷土料理伝承や料理教室の場として利用ができないか検討したい	回答のとおり、給食調理室を授業で活用することは難しいことから、大型の調理器具の利用方法及び部屋の活用方法について、今後検討していきたい	学校において必要としない調理器具等については、学校と協議したうえで、平成19年度中に、希望者を公募し、売却した。				

平成18年度 祁答院地域ふれあい市民会議 進捗状況一覧

議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H18年度末）	進捗状況（H19年度末）	地区振興 計画	H19年 初年度	H20年 初年度	事業完結 分
17	蘭牟田	指定管理者制度が実施され、蘭牟田池周辺の管理も鹿児島市の業者に委託しているが、苦情をよく聞く。十分な管理を	観光課	再度指定管理者と現地確認や協議を実施し、直ちに除草作業を指示し、除草作業を確認しており今後も指導を徹底し適切な観光施設の運営に努める	実施済					
17	蘭牟田	施設管理者と地元の商工会、観光協会、地域と顔つなぎができていない。会合を持ち議題が出れば、温泉のことで指定管理者と場を	観光課	管理をお願いしたのは市で、いろんな問題点も調整し、現場の方々と地域の方々の顔つなぎをし、気軽な連絡、声かけも必要。意向を業者に伝えたい	調整中	蘭牟田池・百年杉ステージ・竜仙館の指定管理者である、特定非営利活動法人鹿児島NET総研については、市観光協会へ入会して頂き各種イベントの協力を頂いている。 また、地元の方を中心とした、いむた池語ろう会を立ち上げ、今後の観光地としてどうあるべきかを協議いただいた。 温泉施設については、いこいの村いむた池が対象となるが、市観光協会への加入は以前から入会頂いており、いむた池を語ろう会のメンバーにも加入いただいている。 その他の蘭牟田地区内の公衆浴場については、H19年度に地元の方へ民間譲渡をされております。				
その他		自治会・墓地の水道料金は無料だった。若者が帰りオール電化にしたが水道が循環で水圧が少なく利用できない。パイプの入れ替えを	水道局	合併後全体的に、自治会・墓地等の水道料金をいただいている。全体的な方針でご理解いただきたい。水圧不足は、場所を教えていただき検討したい	平成19年度中に工事発注	本年度、工事完了				
その他		林業が不振であるが祁答院町は森林が多い。中国に木造住宅など林業の需要が発生し、市内の木材を輸出すれば林業の発展に繋がる	企業・港振興 推進室	再建中の関係団体があるが、川内港から建設のための木材を輸出したいと聞いた。材を運ぶシステムに仕上げれば、林道の整備も必要になると思う	過去に川内港からコンテナで木材を輸出しており、祁答院町の木材を輸出できれば林業の発展にも繋がるため、関係団体と協議をしていきたい					
その他		目を覆うばかりの事件が起きている。市でも水面上では小さなものがあると思う。教育委員会でどのような施策、指導をしているか	学校教育課	表面上はないが、絶対ないとはいえないのでは。青バトの関係で事業を展開している。青少年の健全育成のためにも、しっかり取り組んでいく必要がある	各小中学校は、スクールガードを組織し、児童・生徒の登下校の安全確保に努めている	各小・中学校には通学路等の安全マップを作成させ、それらを活用した安全指導や不審者対応訓練等を実施させている。また、スクールガードを組織させ、地域と一体となった児童生徒の安全確保にも努めるよう指導している。				
その他		児童クラブの助成金がカットされた。畑にさつまいもを作ったり、おそば、ソーメンを注文して何とか運営している状態である	子育て支援課 (こども対策室)	児童クラブなど放課後の安全・安心の施設・指導は大変重要なので来年度の当初予算の中で考えていきたい	民間の児童クラブに対しては、県の補助事業として取り組み、県の要綱に基づき、公平・平等に助成を行うとともに予算措置しているところである	児童クラブに対しては、県の補助事業として取り組み、県の要綱に基づき、公平・平等に助成を行うとともに予算措置しているところである				
その他		通学路に草が出ていて危ない、ライトもついておらず、段差もあるのでPTAからの意見としてあげたい	建設政策課	現場を確認し、本来は県でやるべきだが、地権者の理解が得られたらボランティアでもできないところは職員で対処したい	実施済み					
その他		九州電力に対するお願いである。災害等の際の対応に営業所により差がある。川内営業所の方に配置替えを	企画政策課	同じ薩摩川内市にそういう不自由な面があるとすれば早く改善していくべきではないかと九州電力へお願いしたい	広報室より対応済。 (九州電力から回答をいただき、すでに報告済み)					

平成18年度 里・上甌地域ふれあい市民会議 進捗状況一覧

議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H18年度末）	進捗状況（H19年度末）	地区振興計画	H19年度予算	H20年度予算	事業実施状況
1	里	鮮魚や水産加工品の販売と地元食材を使った食堂として活用可能な、現在閉鎖されている里トンボ元気づくり館を活用できないか	高齢・障害福祉課	国庫補助で整備された施設で用途変更は補助金適正化法に抵触するため休止している。高齢者が元気の源となるような施設の利活用の調査研究していく	国庫補助で整備された施設で用途変更は補助金適正化法に抵触するため休止している。高齢者が元気の源となるような施設の利活用の調査研究である	H18年度末に同じ				
2	里	川内・甌おさかなフェスティバルや川内・甌とれたて市の事業を成功させ今後も継続していくため、これまで以上の理解と協力を。将来は適地にて「市来宝来館」的な施設を整備し、川内・甌の魚介類を広く市民に提供できるように地産地消の普及に寄与したい	林務水産課	両取組みの果たしている役割は評価し、積極的に取り組み必要経費の一部を補助する。魚市場整備は、平成23年まで調査・研究の名目で実施計画に登載済みである。場所は確定していないが、川内市漁協の近くが良いのではないかと。各地の名産を並べ、車で買い物に来れるような施設の調査をするよう指示している	平成19年度も引き続き両取組みに対し補助をすることとしている。平成19年度に水産物市場の計画と合せ流通調査を行うこととしており、その中で直売所やレストラン等の可能性についても調査することとしている	・平成19年度も引き続き両取組みに対し補助を行った。 ・平成19年度は薩摩川内市水産物流通システム調査を行い、検討委員会を行ったうえで、翌年度からの作業内容の可能性を含めた検討を計画している。				
2	里	とれたて市について、日曜日に開催されているが、休みである。土曜日に開催したら新鮮なきびなごを市に出せる	林務水産課	漁協と協議しながら検討したい	平成19年4月から土曜日の開催となる。また、午前から午後へ変更される					
3	里	甌島の観光振興を進めるうえで大型客船の接岸できる港湾施設が必要である。また、川内・甌島間の航路新設の願いと、高速船シーホークの料金の軽減に取り組んでいただけないか、願います	建設政策課	港外への新たな岸壁しかないとのこと。防波堤改良等の港湾整備が進められ、その促進を要望したい。別の接岸方法等がないかについても県へ要望したい	回答の通り					
			商工振興課	川内港と甌各港を結ぶ航路の設定・就航に向け、本年度から調査業務を開始し課題整理を行う。航路の料金は、原油高騰のため甌島商船の経営が厳しい	最近の原油高騰と利用客の減少により、甌島商船の経営状態は非常に厳しい状態となっている。平成18年9月1日からフェリーについてはバンカーサーチャージとして運賃の値上げを行ったところである。しかし、高速船については市からの要望により運賃を据え置いたところである。現在も経営状態が非常に厳しいので御理解をいただきたい					
4	里	本土に住む妊婦は自家用車・公共交通機関等を使って受診するが、甌島の妊婦はそれに加え船賃が余計に高む。フェリー代金の補助を	市民健康課	妊婦の方々は島外で健診を受け、心身のご負担に加え経済的にも過重なことと考えている。県内の離島の妊婦健診助成事業等も考慮し前向きに検討したい	平成19年度から「こしき子宝支援事業」（船賃の一部助成事業）を行なうことにより、甌地域の妊婦の方々の定期受診を支援する。（平成19年度140万円）	H18年度末に同じ				
5	里	みなと公園は道路が近く遊び場として安全とはいえない。防護柵を設置して、子供が安心して遊べるための遊具の増設を	建設整備課	出入り口が少ないことから、出入り口も確保できるような方法を検討したい。遊具の増設は、現在設置している遊具の状況を見ながら検討したい	防護柵の設置については、今後引き続き検討する。遊具の増設については、今後検討する	回答概要のとおり				
6	上甌	市道中甌・江石線は、急勾配・急カーブが多く車両の通行、日常生活に大変不自由をしているので、トンネルによる道路改良を	建設整備課	トンネルによる道路改良は約20億円以上の財源が必要。事業費を抑えるための調査・検討や、補助事業の導入など事業手法を国・県等と協議したい	交通量調査等を実施し、補助事業の導入等について県等と協議した。今後も引き続き協議を続ける	事業には、約20億円必要と試算されており、現在の市の財政を考えると早急には実施できない。				
7	上甌	里道の管理補修について、努力奉仕作業ではどうも補修できない危険箇所の対策を早急にお願したい	建設維持課	手に負えない箇所は、支所の産業経済課建設グループに連絡いただければ、職員が現地調査のうえ、状況を確認の上、対応したい	本年度、3箇所の補修工事を実施いたしました					
8	上甌	台風や荒波で海岸が浸食され、樹木の枯渇の箇所もある。中洲の破壊となまこ池・貝地の生態系の変化も予想される。早急な対応を	建設政策課	景観が損なわれている区間は魅力ある観光地づくり事業として提案中。原因究明と対策の検討・実施を県へ強く要望し観光振興の拠点として活用したい	回答の通り					
9	上甌	7箇所で行われていた基本検診は3箇所に集約され、高齢者等の生活弱者は自然と受診が遠のいた。以前のように7地区で実施を	市民健康課	平成17年度から複合検診を実施しているが、場所の広さが必要であり、以前の会場全部は困難だが、江石地区での実施と桑之浦地区の送迎も検討したい	平成19年度の基本健康診査においては、江石地区でも実施し、桑之浦地区の方については、送迎により、健診を受けていただくことで計画している	平成19年度より、江石地区でも実施している。				
10	上甌	海上交通体系は飛躍したが、串木野駅の乗継は連携していない。フェリーの到着に合わせ上下便の運行ができるようJRへの要望を	商工振興課	鹿児島県鉄道整備促進協議会を通じ、JR九州に要望を続けている。ダイヤの一部の変更はできないとのこと。次のダイヤ改正までお願いしたい	鹿児島県鉄道整備促進協議会を通じJR九州に要望を行ったが、鹿児島本線の駅の無人化と減便についてはJR九州の経営改善の一つでもありダイヤ改正は難しい状況である					
10	上甌	高齢者の立場から鹿児島まで病院に行く高齢者が多く、午前中の検診に間に合わない。林田バスの本社に、鹿児島市に直行できるバスをお願いした。川内にくるくるバスが通っているのので、川内駅までのくるくるバスを用意すれば、新幹線で鹿児島まで午前中に着ける	商工振興課	甌島商船にも、交渉する必要がある。林田バスに串木野港から川内市に入るバスは残すよう協議する必要がある。旧4町でもくるくるバスは走っており、市街地まで来れるようにと調査させている。もし、串木野港から川内までのバスがなくなったら川内まで乗るバスも検討しなければと思うが、1200万円くらいかかる。ご意見として承る	昨年の11月から串木野新港と川内駅の間に南国交通様のご協力により、フェリー便にあわせシャトルバスの運行を開始した。フェリー着10:40 川内駅11:29 新幹線発11:50 鹿児島着12:03					
その他	上甌	上甌でゴミ分別を始めてからまもなく1年になる。先だって、クリーンセンターから「粗大ゴミの中に瓦とか入っていた、今後は出さないように」ということがあった。災害後に瓦、少量の危険物を捨てる場合、個人はどのような処理をすればよいか	環境課	産廃は市で処理していないため、産廃業者に処理する施設に運ぶことになる。台風の後などの自分で処理するには困る量は、どこかステーションとして集め、トラックに積むくらい量になったら産廃業者に引き取っていただくことが知恵を出す必要がある	瓦やがれき類は産廃であるため市で処理はできない。産廃業者に処理を依頼してください。台風災害等で発生した瓦・スレート・がれき類については、一定期間を設けクリーンセンター内に仮置場を設け、職員立会のもと個人搬入を受入れた（無料）	瓦やがれき類は産廃であるため市で処理はできない。産廃業者に処理を依頼してください。台風災害等で発生した瓦・スレート・がれき類については、一定期間を設けクリーンセンター内に仮置場を設け、職員立会のもと個人搬入とする。（無料）				

平成18年度 下甌・鹿島地域ふれあい市民会議 進捗状況一覧

議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H18年度末）	進捗状況（H19年度末）	地区別開 計額	H19年 初予算	H20年 初予算	事業内容 区分
1	下甌 子岳	フェリーに際し乗り継ぎバスがない。シー ホークは料金の負担が大きい。シーホーク をフェリー料金同等額まで値下げできない か	商工振興課	バスや人員が間に合わない。原油高騰で経営が厳しく致し 方なく値上げし、国の補助は受けられず値下げは困難。7 0歳以上に公共交通利用補助券を交付	最近の原油高騰と利用客の減少により、甌島商船の経営状 態は非常に厳しい状態となっている。平成18年9月1日か らフェリーについてはバンカーサーチャージとして運賃の 値上げを行ったところである。 しかし、高速船については市からの要望により運賃を据え 置いていただいたところである。現在も経営状態が非常に 厳しいので御理解をいただきたい					
1	下甌 子岳	シーホークは、料金が高いうえに乗船時間 が長く、フェリーより遅く串木野港に到着 する。効率的な運航体制に変更すべきだ	商工振興課	フェリーの直行便より各港寄港のシーホークが20分長 い。各港の利用状況・利用者の意見等調査し、効率的な運 行体制へと甌島商船と協議したい	現在のフェリーニューこしきの導入時に旧4村で検討され た運行体制であり、簡単には変更することは出来ない。今 後の新船導入も含め検討は続けて行く					
1	下甌 子岳	繁盛期の整理券は下甌の割り当てが少な い。発行枚数を甌島商船は検討するべき	商工振興課	定員オーバー防止のため利用率から算出した枚数を割り当 てているとのこと。利用者の立場に立ったシステムの構築が出 来ないか甌島商船と協議したい	利用率から算出した枚数を割り当てているとのことであ る。引き続き割り当て枚数の検討など要望は続けて行く					
1	下甌 子岳	甌島では高校進学時に島を離れるため、親 の負担と子供たちの不安は大きい。週末気 軽に帰れるよう割引率が高くてほしいか	商工振興課	高校生の甌島商船の利用は学校長発行の証明書の提示で2 割引が可能である	回答の通り					
2	下甌 子岳	高校進学時の甌島で子どもを持つ家庭は苦 労する。このため少子化と人口流出になる。高 校在学中の住居や生活費に対する補助を	学校教育課	奨学資金制度により希望者に最高月額30,000円の貸付等があ る。特別奨学金は月5,000円が支給され返済の必要はない。 甌島地域からの申し込みはない	奨学資金制度の活用と併せて、平成19年度においては、 甌島地区市内高校入学祝金事業として、1人当たり10万 円を支給するよう予算措置している	奨学資金制度の活用と併せて、平成20年度においても 甌島区域市内高校入学祝金事業として、1人当たり10万 円を支給するよう予算措置している。				
3	下甌 手打	台風の常襲地で避難施設は必要不可欠。避 難所は建設後27年が過ぎ安心して避難で きない。早急に今ある施設を補強整備を	防災安全課	へき地保健福祉館は豪雨の場合の避難所としており整備する 計画はない。台風は予想が立てられることから、安全な生涯 学習センター等へ早めに避難を	これまでへき地保健福祉館は施設が古く、台風時には使用 できない状況であったが、平成19年度に強化ガラスに取り 替えることで、整備を進めている	平成19年度において、強化ガラスへの取り替え工事を実 施し、施設の補強整備を図ったところである。				
4	下甌 手打	経済的負担の軽減及び島内への観光客増大 を図るうえからも甌島商船及び関係機関に 対し運賃の格差の是正を望む	商工振興課	原油高騰の煽りを受け経営が厳しく、会社も致し方なく値 上げを9月1日から行っている。赤字となっても国の補助 は受けられず料金の値下げは困難	最近の原油高騰と利用客の減少により、甌島商船の経営状 態は非常に厳しい状態となっている。平成18年9月1日か らフェリーについてはバンカーサーチャージとして運賃の 値上げを行ったところである。 しかし、高速船については市からの要望により運賃を据え 置いていただいたところである。現在も経営状態が非常に 厳しいので御理解をいただきたい					
5	下甌 西山	沖防波堤の一部が前後に比べ低く、台風や 冬季の波浪時は波が越えて危険である。漁 船が安心して係留できるように整備を	林務水産課	基準が変わる度の整備は整備計画及び財政上の問題から難し い。安全・安心の漁港整備を目指しており、台風や冬場の季 節風の越波を見つつ検討したい	台風時の状況等を確認し対応等について検討することとし ている	・19年度には大型台風の当地への上陸はなく確認ができ なかったため、引き続き状況等の確認を続けている。				
6	下甌 西山	下甌島の東側は県道手打蘭牟田港線が通っ ているが、西側に至っては手打集落から片 野浦集落までと、自衛隊基地周辺一部でと ぎれている。早急に西回りに県道を整備し てもらいたい	建設政策課	当面東側ルートを最優先で整備する方針であり、現時点で の西側の整備計画はないとのこと。全線改良は事業費が非 常に大きくなり財政的にも難しいが、旧下甌村時代から急 カーブ等の拡幅等、危険箇所の改修をしてきており、当面 は法面崩土等危険箇所の整備、側溝整備や退避所等の設置 等を対応する	回答の通り					
7	下甌 青瀬	瀬尾観音三滝公園の遊歩道に設置してある8 個の灯籠の根元が腐食し、配線がむき出しに なり、灯らないものもある。早急に改良を	観光課	灯籠の改修も検討するが地区コミュニティ協議会や指定管理 者とも連携し、灯籠に代わりちょうちんを吊り下げながらの 優雅な景観づくりを検討したい	平成19年度に改修工事予定	改修工事完了				
7	下甌 青瀬	電気が来ないことにはもちろんも点かない のでは。2番、3番目の滝まで見に来るが、 1番目の滝まで来ないので、道の整備を	観光課	電気も含めて支所と協議して検討したい。夏の間だけコー ドを延長してどうかと話をしている。滝についても知名度 の問題だと思うが、検討したい	道の整備は検討課題	観音三滝周辺の整備構想について、地域の方々に集まって もらい意見の集約を図った。今後、整備の手法を模索す る。				
8	下甌 青瀬	防火水槽は青瀬に2カ所瀬尾に1カ所あるが 十分な消防水利が確保できず、万全な対応は 不可能と思われる。早急に防火水槽の設置を	消防局	設置要望地は、青瀬の宝海寺付近、瀬尾の瀬尾寺付近と聞 いているが、市では年に4基建設しており、周囲の住宅の 状況、水利の状況等を考慮し優先順位をつけている。甌島 で国の基準の30パーセントの規模のものを特定事業ふる さとおこし振興事業を適用し毎年1基ずつできないか協議 している	19年度に長浜地区に「特定離島ふるさとおこし事業」3 0トン水槽を建設する予定である。20年度以降につい ても支所と協議しながら防火貯水槽を整備していく予定	平成19年度長浜地区に30トン水槽を設置済である。				
9	下甌 長浜	城の頭地区と芦浜地区の中央部分に防火水 槽の設置を要望する	消防局	設置要望地は、青瀬の宝海寺付近、瀬尾の瀬尾寺付近と聞 いているが、市では年に4基建設しており、周囲の住宅の 状況、水利の状況等を考慮し優先順位をつけている。甌島 で国の基準の30パーセントの規模のものを特定事業ふる さとおこし振興事業を適用し毎年1基ずつできないか協議 している	19年度に長浜地区に「特定離島ふるさとおこし事業」3 0トン水槽を建設する予定である。20年度以降につい ても支所と協議しながら防火貯水槽を整備していく予定	平成19年度長浜地区に30トン水槽を設置済である。				
10	下甌 長浜	甌島敬老園の上方の急傾斜地域では、亀裂 が入り崩壊の危険があり、シートで補強し ています。災害を事前に防止するため、早 期着工をお願いします	林務水産課	県営県単治山事業で法面保護工事を予定していたが一般公 共治山事業（国庫補助）に変更し、本年度の予算は、崩壊 した2ヶ所の不安定土砂の取除きと、法面を応急的に保護 するとしている。平成19年度からの国庫補助事業による 治山事業の準備として、関係地権者の承諾書を取り纏めて いる	県営事業によりH18から事業着手しており、H19に完 了予定である	H18に県単事業で応急処理し、H19から本格的に公共 治山事業で着手している。H21に完成予定である。				

平成18年度 下甌・鹿島地域ふれあい市民会議 進捗状況一覧

議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H18年度末）	進捗状況（H19年度末）	地区別進捗率	H19年度進捗率	H20年度進捗率	事業内容区分
1.1	下甌内川内	近年救急車で運ばれたり、足腰が弱り思うように歩けない人が増えている。坂や階段等が多い立地条件下から人命救助には不利であり、タンカで運ぶにも道が狭く時間がかかる。ストレッチャー等を使用できるような集落道の整備をぜひお願いしたい	建設維持課	急勾配の階段を平にするとう勾配がきつくなりストレッチャー等の移動が危険であるとの指摘がある。地区コミュニティ協議会や消防局等の関係者と現地調査し、現在の集落道を活かす形で、老朽化した箇所の補修等の整備を検討する。ストレッチャー等を使用できるような集落道の整備は検討課題としたい	検討中です	19年度に内川内集落の現況測量を実施し、消防、地区コミを含めて協議していく予定です。				
1.2	下甌内川内	ダムからの排水が梅雨や台風時に溢れ流れ出しがけ崩れ等の被害を引き起こしている。側溝を水の流れに添った向きに変更を	建設維持課	流れる方向を変えるための溜樹の鋼製蓋が水が吹き出し市道及び里道に流れている。鋼製蓋をコンクリート蓋に取り替え、その後の状況のみて対応する	今年度現地調査を実施しました。これを踏まえ19年度に実施する予定です（工事金額は、未定です）	19年度末に発注し現在施工中です				
1.2	下甌内川内	コンクリートで蓋をしていただくのはありがたいが、この側溝に落ち葉とかが流れてくるので、取り外し可能な蓋にして欲しい	建設維持課	コンクリート蓋に変えたとき、落ち葉が詰まったのが見えにくくなる。ゴミを止めるスクリーンを上流に作るなど工夫していきたい	今年度現地調査を実施しました。これを踏まえ19年度に実施する予定です（工事金額は、未定です）	19年度末に発注し現在施工中です				
1.3	鹿島	空缶、ビン類などは洗って出せないで燃えないゴミの時に出すと処理業者が収集せずに残る。海岸等に流れ着いたプラスチック類はどう処分するのか。雑木や雑草の処分地がなく地区全体で作業する場合は大変な量になるので処分地を指定するなど良い策はないか	環境課	県へ海岸の環境保全への措置を県市長会で要請したが明確な方針は示されていない。海岸漂着ごみはやわらかいプラスチックは「燃やせるごみ」へ、浮球のような硬いプラスチックは「燃やせないごみ」で排出を。雑木や雑草はクリーンセンターへの搬入を。雑木は長さ30cm以内、直径10cm以内で	海岸漂着ごみについては、海岸を管理する海岸管理者に相談してください。処理については回答概要のとおりです	海岸漂着ごみについては、海岸を管理する海岸管理者に相談してください。処理については回答概要のとおりです				
1.4	鹿島	平成16年の台風21号、平成17年の台風14号の接近に伴い大潮と満潮が重なった時間帯に支所付近の住宅が床上及び床下浸水の被害を受けた。冠水の被害を最小限に防げる対策（例えば土のうの準備・配備・消防団等との連携）に万全を期していただきたい	防災安全課	甌地域各支所に土のう袋を1,000枚配付し両支所には2,000枚備蓄している。砂詰した土のう袋を各箇所に配備し集中豪雨時の災害対策に万全を期したい	アルファーマー、ビニールシート、土のう袋は毎年購入し、備蓄している	ビニールシート、土のう袋は毎年購入し、備蓄している。また、消防局で土入り土のうを100袋を鹿島支所に備蓄している。				
			建設維持課	冠水対策で内水解析業務を発注。蘭牟田地区には排水施設がありどれだけ動かせばいいか、排水路が機能しているか等を検討し方針が示せるよう検討中	平成19年度よりバイパス水路の工事を計画している	水路整備工事を実施した。				
1.5	鹿島	出合いの場を甌島振興協議会等で企画し実施できないか、またこのような出合いの場に多く参加できるような助成措置ができないか	企画政策課	それぞれの地域で特色あるやり方がある。出合いの企画・実施は、行政主導でなく地元漁業青年部や商工会青年部等が中心となり真剣に取組む必要がある	答弁のとおり、地元が中心となって、取り組んで頂きたい	回答の必要なし				○
1.6	鹿島	岩崎グループの廃止路線が発表され、串木野新港関係の5路線が入っており、島民の不安が募る。いずれも鹿島市内・川内方面・串木野駅から甌島航路へのアクセスとして島民が利用している。関係のいちき串木野市と連携提携し代替バス運行の検討を	商工振興課	串木野新港関係5系統は、鹿児島市、鹿児島空港方面には、他の路線バス等に乗換えが必要であるが、甌島商船利用者の串木野新港からの移動手段は確保できると思われる。現在、甌航路のダイヤの全てには接続していないので、今回の見直しで全ての時間で接続を行い、今以上の利便性の向上に努める	昨年の11月から串木野新港と川内駅の間に南国交通船のご協力により、フェリー便にあわせシャトルバスの運行を開始した。また、高速船・フェリーと串木野駅間には林田バスが運行を始めている。以前より便数は増えている					
1.7	鹿島	フェリーの下り便が悪天候により鹿島港に着岸できない事態が多く発生している。この場合、長浜港で路線バスを40分間程度待ち定期バスで鹿島町に戻るようになる。港の静穏度を保つための抜本改修について早期実現の要請とバス代負担の軽減を要望する	林務水産課	鹿島港の岸壁は静穏度確保の防波堤や波除堤の整備並びに護岸用地等の整備が実施され平成17年度末の進捗率は34%。早期完成に向けた要望を実施	県に対して要望をおこなった	・県が実施する蘭牟田漁港広域漁港整備事業計画に基づき事業の実施が行われている。平成19年度末現在進捗率59.6%である。				
			商工振興課	バス代の直接負担は、公営企業会計に基づき運行されており困難だが、70歳以上の本市住民に対し公共交通利用補助券を交付している	市のバス代の直接負担は、公営企業会計に基づき運行されており困難である					
その他		市道・林道の危機管理について。下甌の林道は利用もできない。お金がないといわれるが、地震があればそれではすまない	林務水産課	市民の生活道路であるので、整備しなければならない	生活道路として利用頻度の高い路線から整備に着手している	草払い委託については、年1回であるが利用頻度の高い路線から随時実施している。維持工事等については、パトロール等で箇所の確認し、予算額を考慮しながら工事を発注している。				
その他		ゴミ処理の職員が体を悪くした。職員の健康管理についても伺いたい	総務課	お話にあったゴミ処理の職員について、公務災害であればしるべき対応を取る。職員の健康管理は健康診断、公害予防など十分気をつけている	職員の健康管理については、定期健康診断を全職員対象として毎年実施しており、併せて人間ドック受診の勧奨及び助成も実施している。また、定期的に開催される安全衛生委員会のなかで作業場等を巡視し、作業環境、作業方法を確認し現場従事者の健康障害の防止及び健康の保持増進に努めている					
その他		下甌は高レベル放射性廃棄物の適地として挙げられたが、受け入れないでいただきたい	企画政策課	原子力発電所から出る使用済み燃料は、95%は再び燃料になり残りはガラスで固め地下300mに捨てることになるが、甌島は宝の島なので要望しない	答弁のとおり、要望する予定はない	回答の必要なし				○